

4-1 関東・中部地方とその周辺の地震活動（2025 年 11 月～2026 年 4 月） Seismic Activity in and around the Kanto and Chubu Districts (November 2025 – April 2026)

気象庁
Japan Meteorological Agency

今期間、関東・中部地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 103 回、M5.0 以上の地震は 7 回発生した。このうち最大は、2025 年 12 月 13 日に東海道南方沖で発生した M5.3 の地震であった。

2025 年 11 月～2026 年 4 月の M4.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 「令和 6 年能登半島地震」の地震活動（今期間の最大 M4.9，最大震度 4，第 2 図 (a)～(j)）

能登半島では 2020 年 12 月から地震活動が活発になり、2023 年 5 月 5 日には M6.5 の地震（最大震度 6 強）が発生していた。2023 年 12 月までの活動域は、能登半島北東部の概ね 30km 四方の範囲であった。

2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分に M7.6 の地震（最大震度 7）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に伸びる 150km 程度の範囲に広がっている。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、震度 1 以上を観測した地震が 2025 年 12 月は 13 回、2026 年 1 月は 9 回発生するなど、活発な状態が継続している。期間中の最大規模の地震は、12 月 14 日 23 時 26 分に石川県西方沖の深さ 8km で発生した M4.9 の地震（最大震度 4）である。

(2) 茨城県南部の地震（M4.9，最大震度 4，第 3 図 (a)，(b)）

2025 年 12 月 12 日 19 時 05 分に茨城県南部の深さ 52km で M4.9 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(3) 千葉県東方沖の地震（M4.6，最大震度 4，第 4 図）

2026 年 1 月 9 日 20 時 07 分に千葉県東方沖の深さ 30km で M4.6 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構は南北方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(4) 岐阜県飛騨地方の地震（M4.8，最大震度 4，第 6 図 (a)，(b)）

2026 年 1 月 15 日 14 時 40 分に岐阜県飛騨地方のごく浅い場所で M4.8 の地震（最大震度 4，第 6 図 (a) 中①）が、同日の 14 時 48 分にほぼ同じ場所で M5.2 の地震（最大震度 3，第 6 図 (a) 中②）が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。これらの発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

(5) 硫黄島近海の地震 (M6.5, 震度 1 以上を観測した地点なし, 第 7 図 (a), (b))

2026 年 1 月 22 日 01 時 37 分に硫黄島近海の深さ 15km (CMT 解による) で M6.5 の地震 (震度 1 以上を観測した地点はなし) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

(6) 茨城県北部の地震 (M4.5, 最大震度 4, 第 8 図)

2026 年 1 月 24 日 06 時 19 分に茨城県北部の深さ 7km で M4.5 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

(7) 千葉県南部の地震 (M4.5, 最大震度 4, 第 9 図)

2026 年 1 月 29 日 10 時 25 分に千葉県南部の深さ 24km で M4.5 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。

(8) 硫黄島近海の地震 (M6.2, 震度 1 以上を観測した地点なし, 第 10 図 (a), (b))

2026 年 3 月 2 日 12 時 55 分に硫黄島近海の深さ 16km (CMT 解による) で M6.2 の地震 (震度 1 以上を観測した地点はなし) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

(9) 茨城県南部の地震 (M5.0, 最大震度 5 弱, 第 12 図 (a), (b))

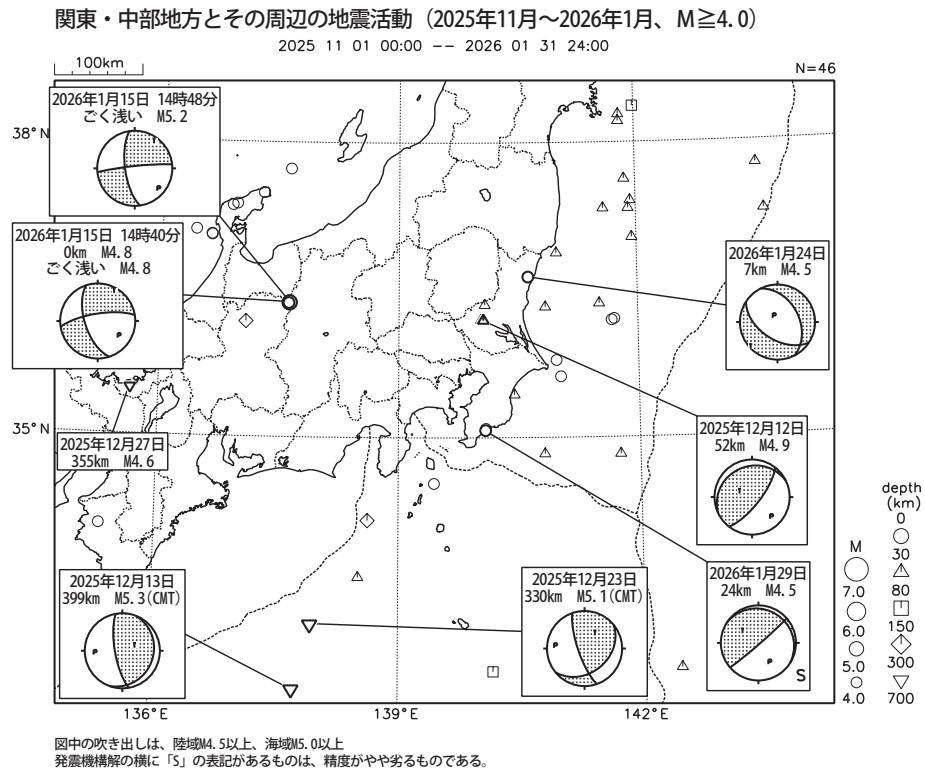
2026 年 4 月 1 日 10 時 06 分に茨城県南部の深さ 48km で M5.0 の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。この地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(10) 長野県北部の地震 (M5.0, 最大震度 5 強, 第 13 図 (a) ～ (d))

2026 年 4 月 18 日 13 時 20 分に長野県北部の深さ 8km で M5.0 の地震 (最大震度 5 強, 第 13 図 (a) 中①) が、同日の 14 時 54 分にもほぼ同じところで深さ 9km で M5.1 の地震 (最大震度 5 弱, 第 13 図 (a) 中②) が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。これらの発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。今回の地震の震央付近では、4 月中に震度 1 以上を観測した地震が 37 回 (震度 5 強 : 1 回, 震度 5 弱 : 1 回, 震度 3 : 7 回, 震度 2 : 6 回, 震度 1 : 22 回) 発生した。

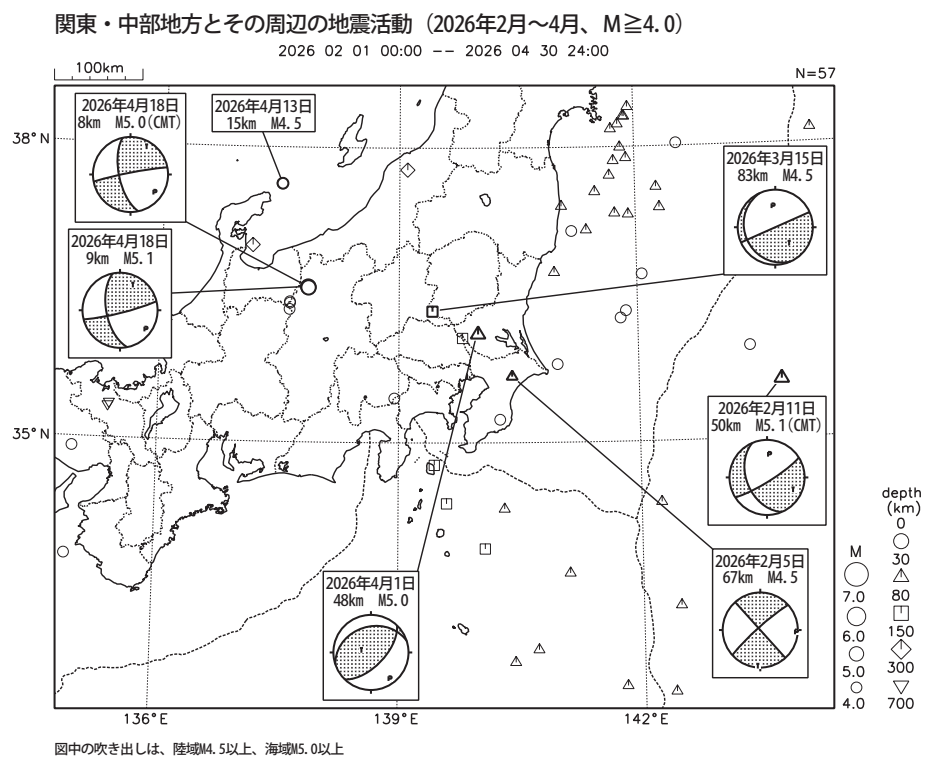
(11) その他の地震活動

発生年月日	震央地名	規模 (M)	深さ (km)	最大震度
2026 年				
1 月 10 日	硫黄島近海	5.5	-	3 (第 5 図)
3 月 15 日	群馬県南部	4.5	83	3 (第 11 図)



第 1 図 (a) 関東・中部地方とその周辺の地震活動 (2025 年 11 月～2026 年 1 月、 $M \geq 4.0$ 、深さ ≤ 700 km)

Fig. 1(a) Seismic activity in and around the Kanto and Chubu districts (November 2025 – January 2026, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).



第 1 図 (b) つづき (2026 年 2 月～4 月、 $M \geq 4.0$ 、深さ ≤ 700 km)

Fig. 1(b) Continued (February – April 2026, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).

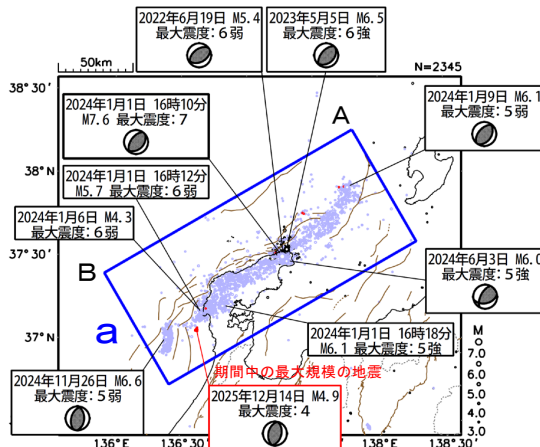
「令和 6 年能登半島地震」の地震活動

震央分布図
(2020 年 12 月 1 日～2025 年 12 月 31 日、
深さ 0～30km、 $M \geq 3.0$)

震源のプロット
黒色 2020 年 12 月 1 日～2023 年 12 月 31 日
水色 2024 年 1 月 1 日～2025 年 11 月 30 日
赤色 2025 年 12 月 1 日～31 日

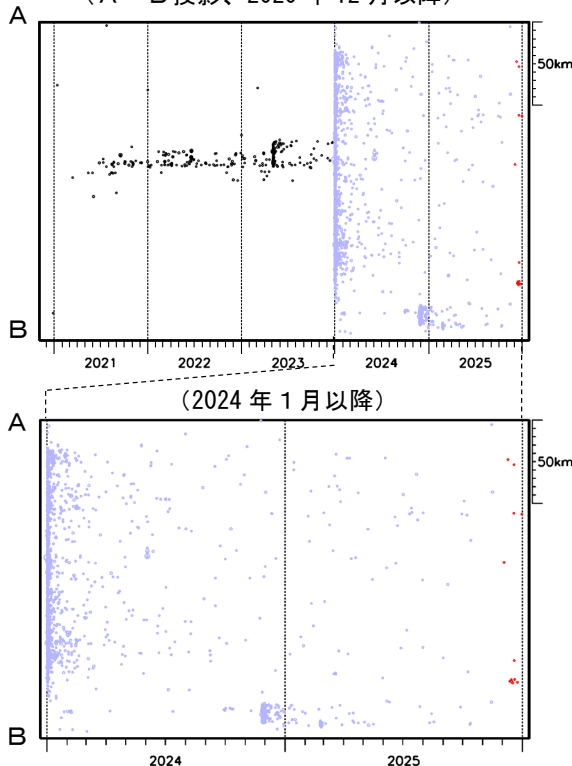
吹き出しは最大震度 6 弱以上の地震、 $M 6.0$ 以上の地震
及び 12 月中の最大規模の地震

図中の発震機構は CMT 解



図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

領域 a 内の時空間分布図
(A-B 投影、2020 年 12 月以降)



第 2 図 (a) 「令和 6 年能登半島地震」の地震活動

Fig. 2(a) Seismic activity of "The 2024 Noto Peninsula Earthquake".

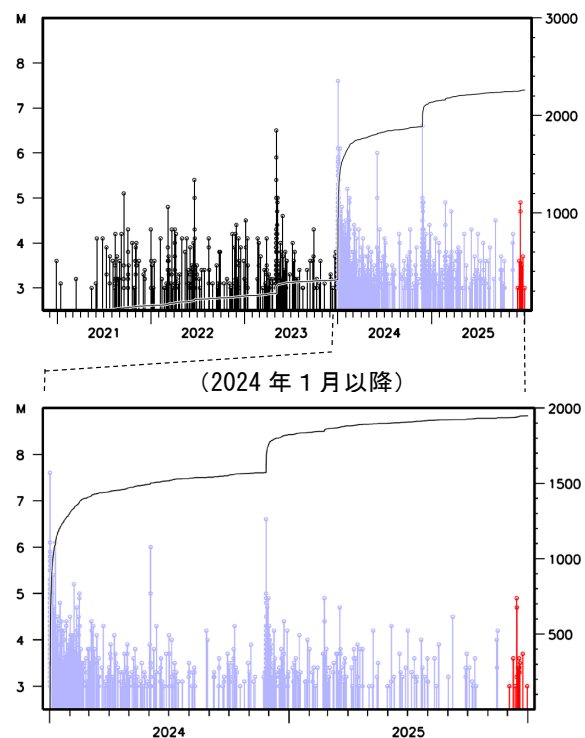
能登半島では 2020 年 12 月から地震活動が活発になり、2023 年 5 月 5 日には $M 6.5$ の地震 (最大震度 6 強) が発生していた。2023 年 12 月までの活動域は、能登半島北東部の概ね 30km 四方の範囲であった。

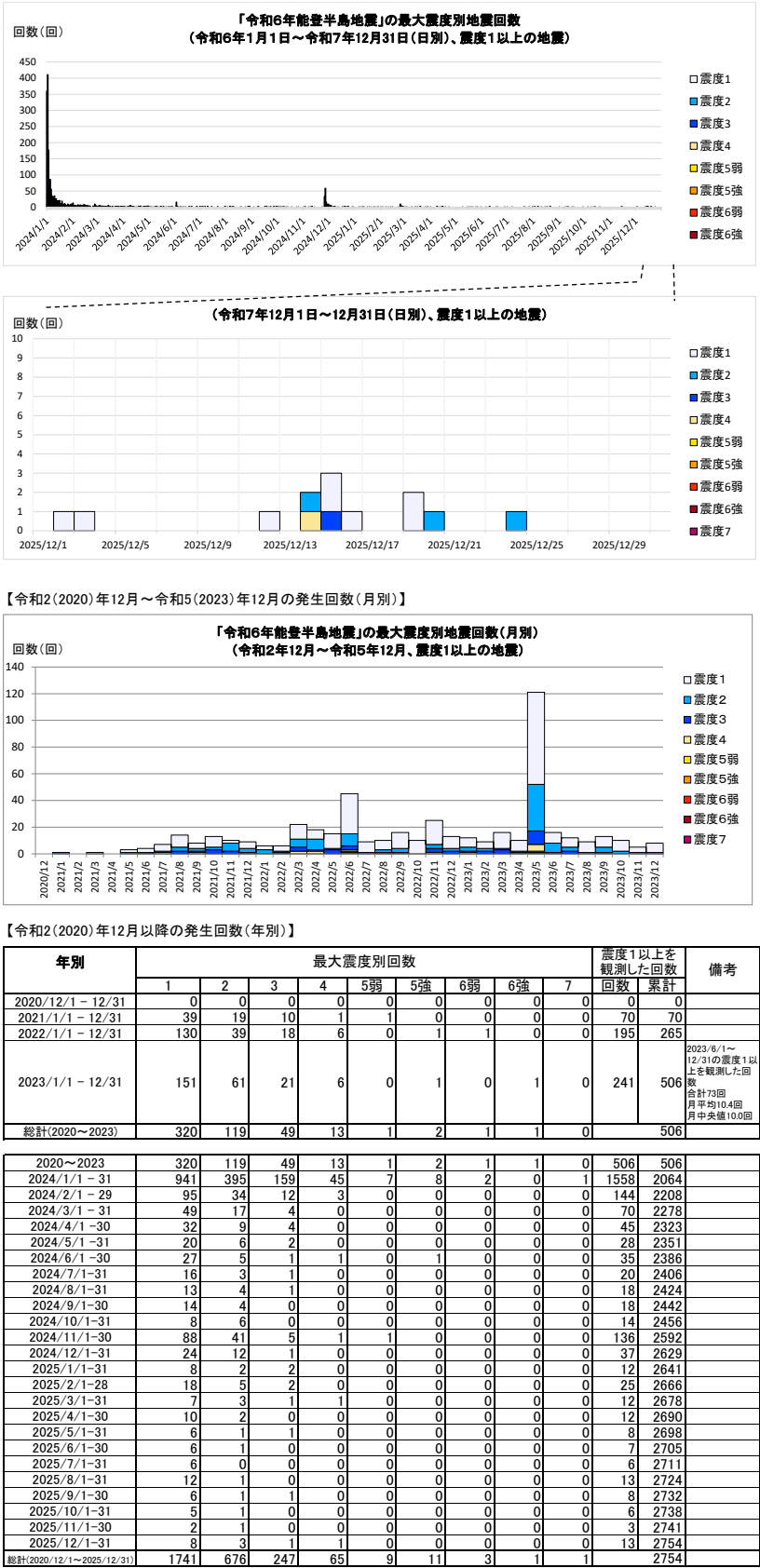
2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分に石川県能登地方の深さ 16km で $M 7.6$ の地震 (最大震度 7) が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる 150km 程度の範囲に広がっている。 $M 7.6$ の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024 年 11 月 26 日に $M 6.6$ の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、震度 1 以上を観測した地震が 11 月は 3 回、12 月は 13 回発生するなど活発な状態が継続している。なお、期間中の最大規模の地震は、12 月 14 日 23 時 26 分に石川県西方沖 (注) の深さ 8km で発生した $M 4.9$ の地震 (最大震度 4) である。この地震の発震機構 (CMT 解) は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(注) 情報発表の震央地名は「能登半島沖」である。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図
(2020 年 12 月以降)

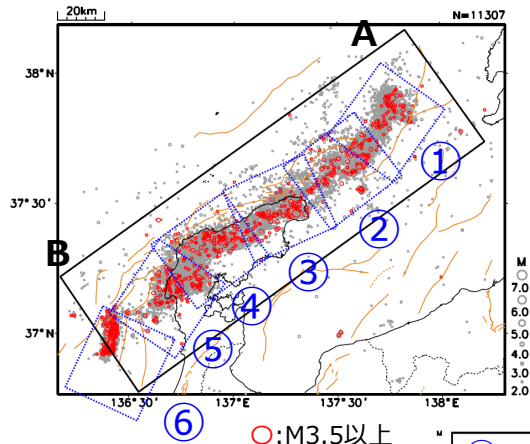




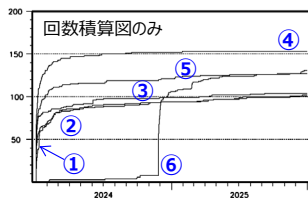
第 2 図 (b) つづき
Fig. 2(b) Continued.

令和6年能登半島地震の地震活動（M7.6発生後の地震活動の状況）

震央分布図
 (2024年1月1日19時10分～2025年12月31日、
 深さ0～30km、M $\geq$ 2.0)



茶色実線及び破線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

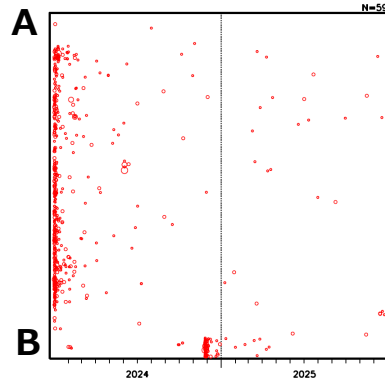


・M7.6発生直後は地震検知漏れがあるため、M7.6発生から3時間以降（2024年1月1日19時10分以降）はM3.5以上（左図）、2024年1月10日以降はM2.0以上（右図）で表示。

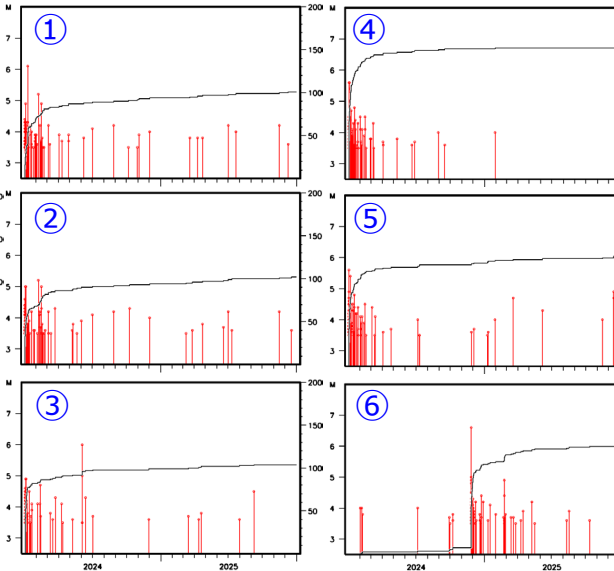
・MT・回数積算図の両縦軸は領域①～⑥で同じ

2024年1月1日19時10分～
 2025年12月31日、M $\geq$ 3.5

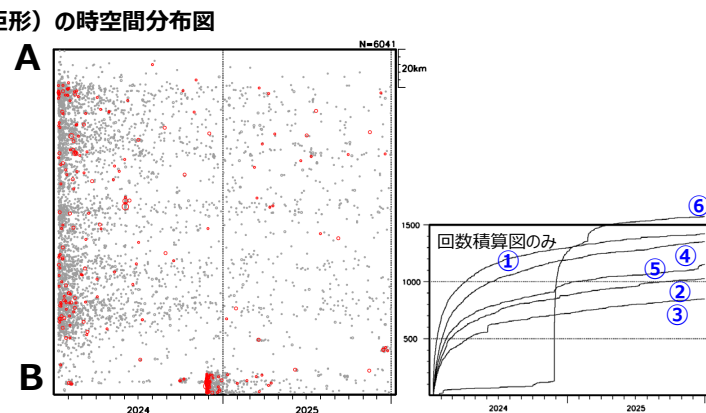
地震活動域全体（黒矩形）の時空間分布図



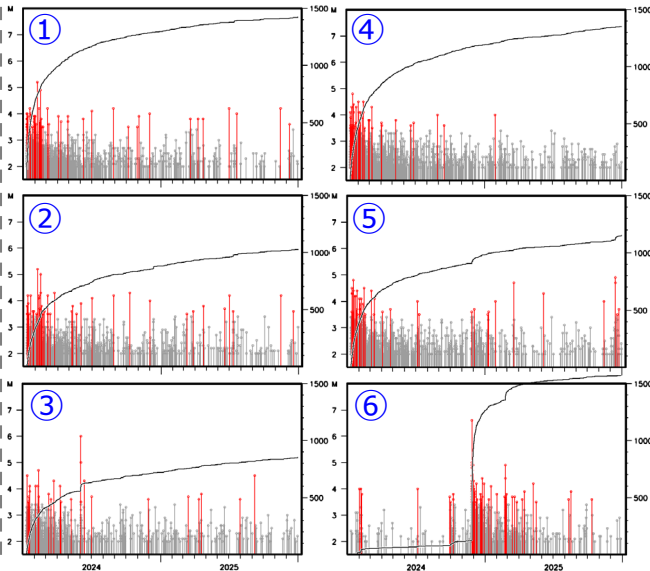
領域①～⑥（青矩形）のMT・回数積算図



2024年1月10日～
 2025年12月31日、M $\geq$ 2.0



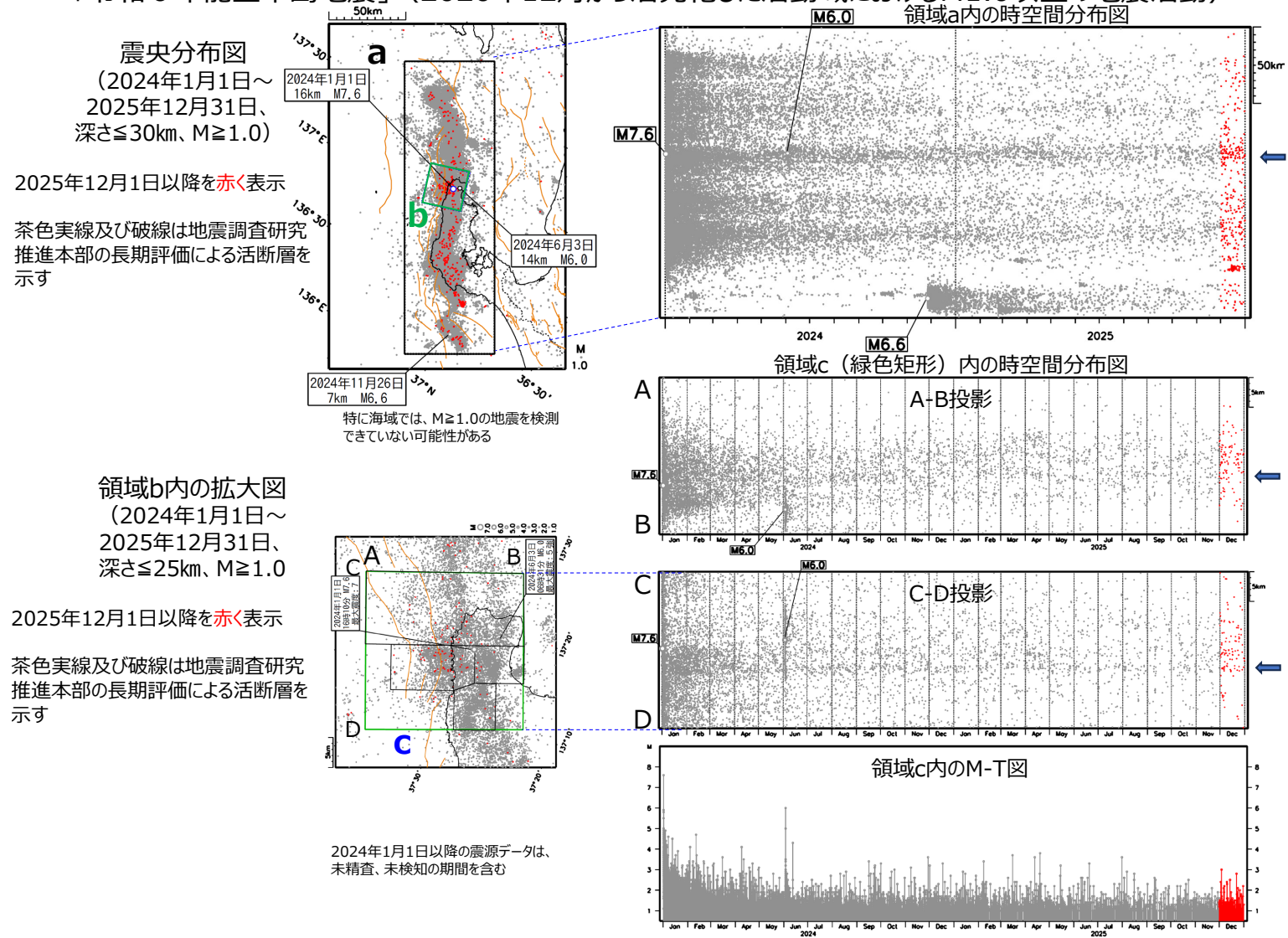
領域①～⑥（青矩形）のMT・回数積算図



第2図(c) つづき

Fig. 2(c) Continued.

「令和6年能登半島地震」(2020年12月から活発化した活動域におけるM1.0以上の地震活動)



第2図(d) つづき
Fig. 2(d) Continued.

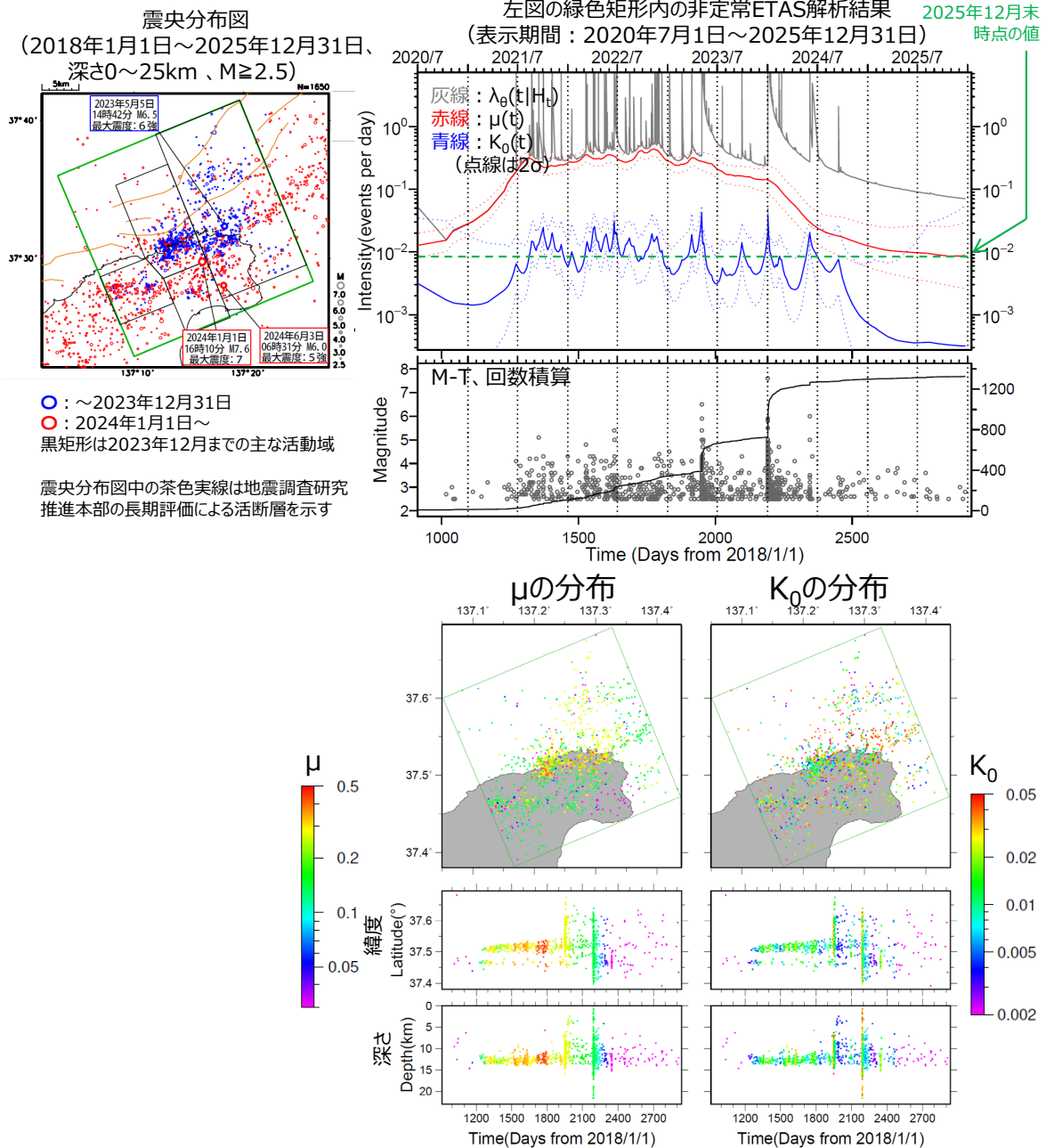
能登半島地震の地震活動（非定常ETAS解析）

非定常ETASモデル（Kumazawa and Ogata, 2013）による背景地震活動度 $\mu(t)$ 、余震誘発強度 $K_0(t)$ を推定した。

$$\lambda_{\theta}(t|H_t) = \mu(t) + \sum_{\{i:t_i < t\}} \frac{K_0(t_i)e^{\alpha(M_i - M_c)}}{(t - t_i + c)^p} \quad \lambda_{\theta}(t|H_t) : \text{強度関数}, \mu(t) : \text{背景地震活動度}, K_0(t) : \text{余震誘発強度}$$

Kumazawa, T., Ogata, Y., 2013. Quantitative description of induced seismic activity before and after the 2011 Tohoku-Oki earthquake by nonstationary ETAS model. J. Geophys. Res.118, 6165–6182.

○非定常ETAS解析には震央分布図の緑色矩形内の震源データを使用した。 μ 、 K_0 の初期値及び固定値 α 、 c 、 p は、2020年12月までの震央分布図内の主に陸域M1.0以上で定常ETAS解析により求めた値を基本としたが、M下限が大きくなると地震数が少なくなり非定常ETAS解析が安定しないため、先行研究（Ogata, 2011）によるこの地域の値を用いて、非定常ETAS解析のABICが小さいものを採用した。



第 2 図 (e) つづき

Fig. 2(e) Continued.

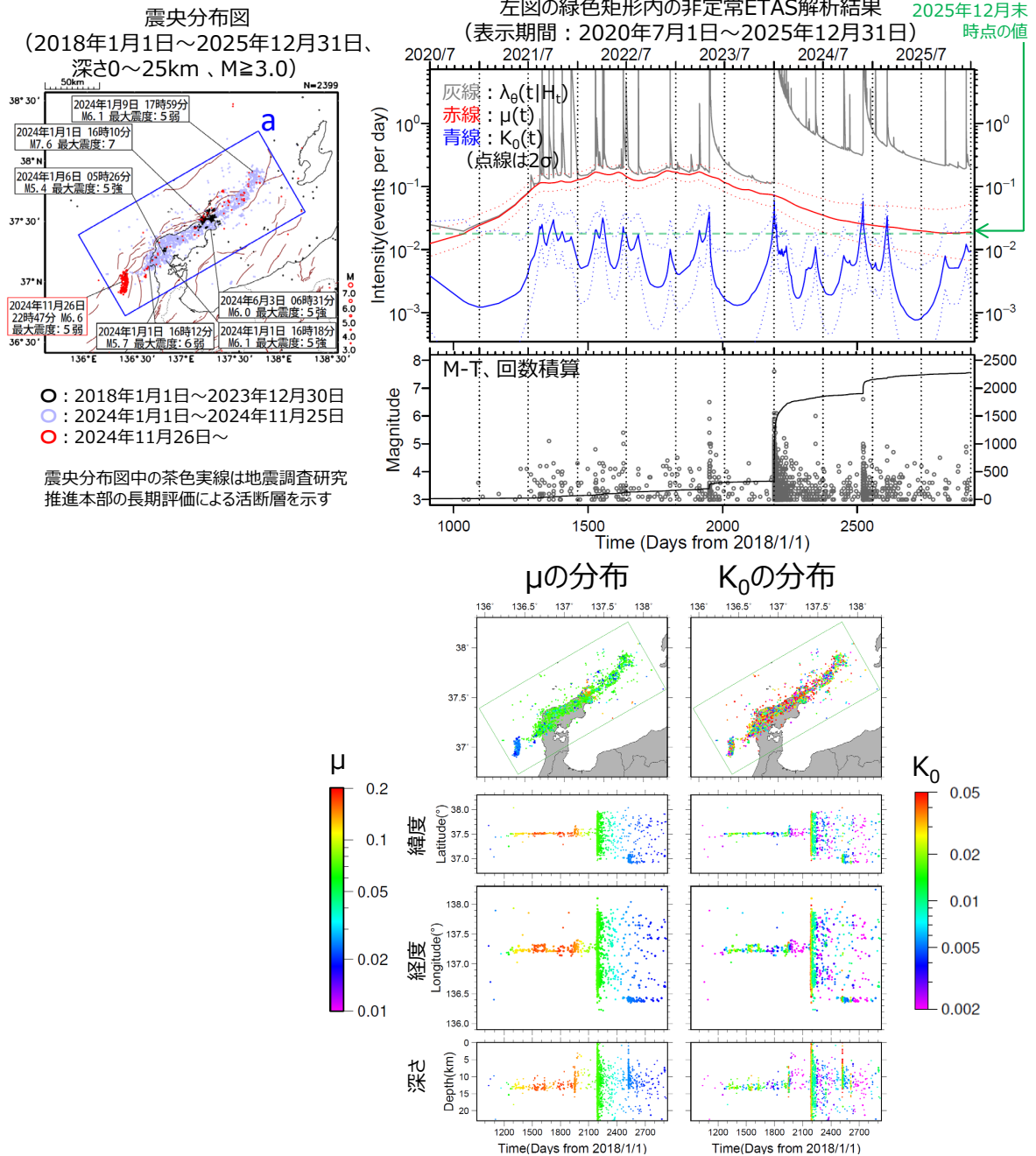
能登半島地震の地震活動（非定常ETAS解析）

非定常ETASモデル（Kumazawa and Ogata, 2013）による背景地震活動度 $\mu(t)$ 、余震誘発強度 $K_0(t)$ を推定した。

$$\lambda_{\theta}(t|H_t) = \mu(t) + \sum_{\{i:t_i < t\}} \frac{K_0(t_i)e^{\alpha(M_i - M_c)}}{(t - t_i + c)^p} \quad \lambda_{\theta}(t|H_t) : \text{強度関数}, \mu(t) : \text{背景地震活動度}, K_0(t) : \text{余震誘発強度}$$

Kumazawa, T., Ogata, Y., 2013. Quantitative description of induced seismic activity before and after the 2011 Tohoku-Oki earthquake by nonstationary ETAS model. J. Geophys. Res.118, 6165–6182.

○非定常ETAS解析には震央分布図の緑色矩形内の震源データを使用した。 μ 、 K_0 の初期値及び固定値 α 、 c 、 p は、2020年12月までの震央分布図内の主に陸域M1.0以上で定常ETAS解析により求めた値を基本としたが、M下限が大きくなると地震数が少なくなり非定常ETAS解析が安定しないため、先行研究（Ogata, 2011）によるこの地域の値を用いて、非定常ETAS解析のABICが小さいものを採用した。



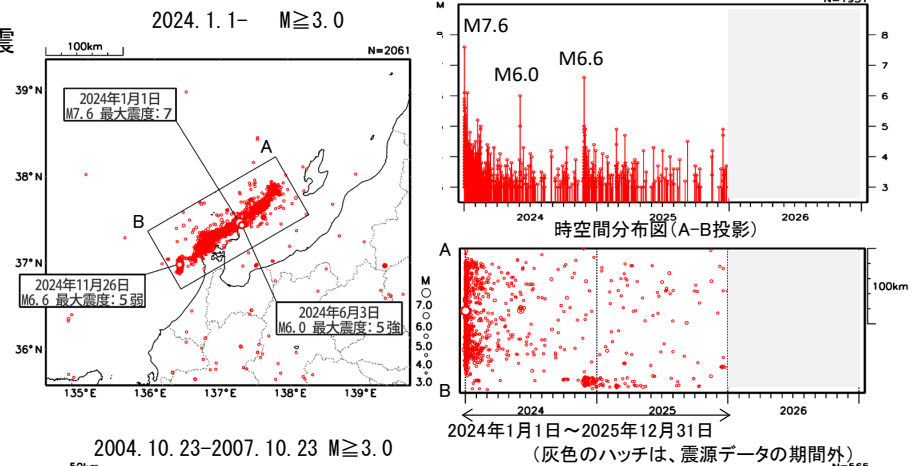
第 2 図 (f) つづき

Fig. 2(f) Continued.

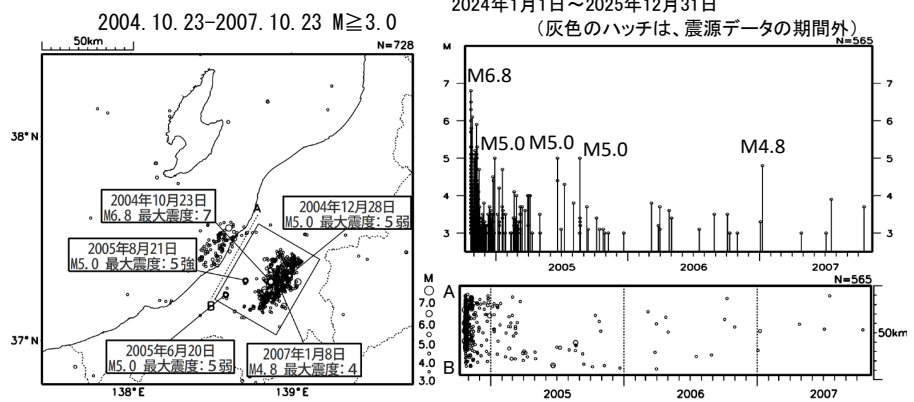
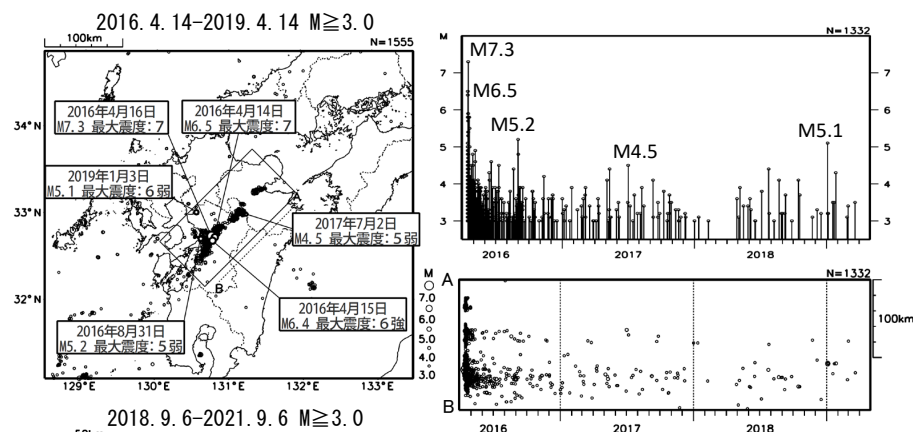
陸のプレート内で発生した過去の大地震との活動比較(36か月間)

令和 6 年能登半島地震

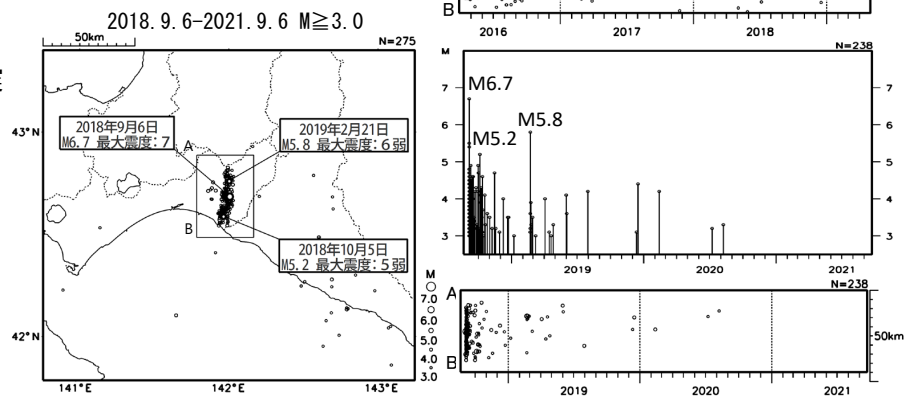
(M7.6, 最大震度 7)

平成16年(2004年)
新潟県中越地震

(M6.8, 最大震度 7)

平成28年(2016年)
熊本地震(M6.5, 最大震度 7,
M7.3, 最大震度 7)平成30年
北海道胆振東部地震

(M6.7, 最大震度 7)



第 2 図 (g) つづき

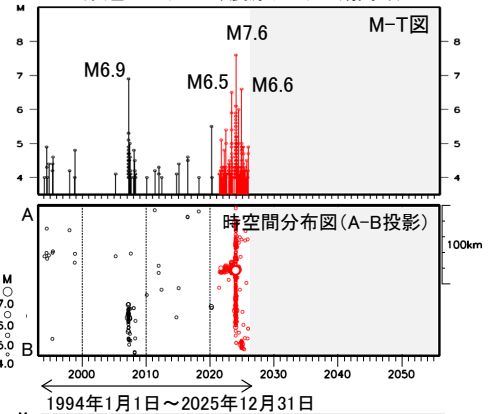
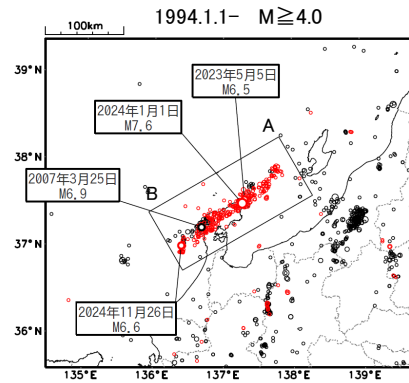
Fig. 2(g) Continued.

日本海沿岸で発生した過去の大震災（地震活動比較、前後30年間）

(灰色のハッチは、震源データの期間外)

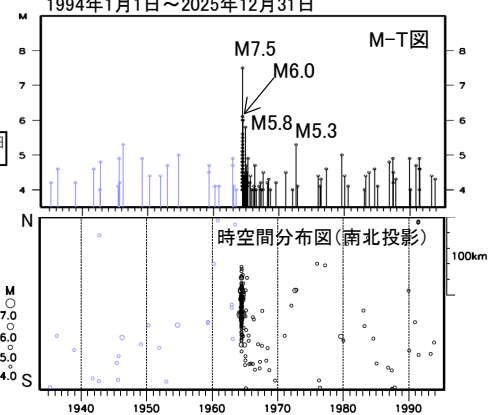
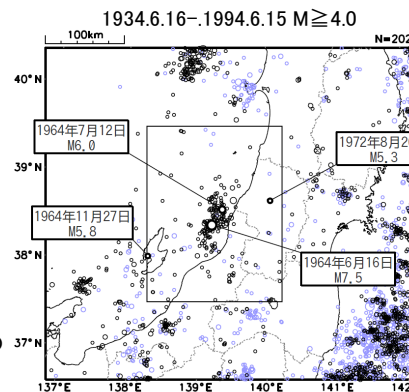
「令和6年能登半島地震」

(M7.6, 最大震度7)

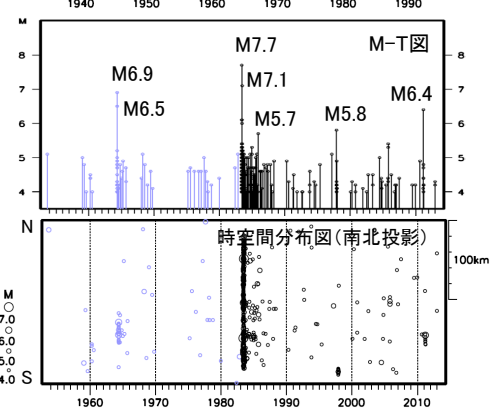
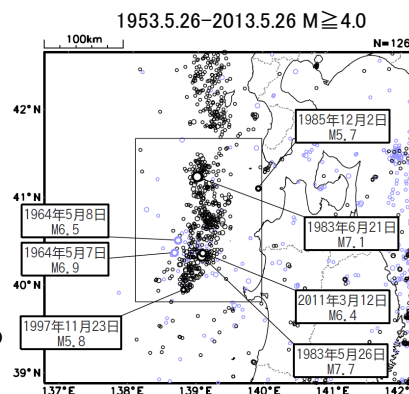
2020年12月1日以降の
地震を赤色で表示

1964年「新潟地震」

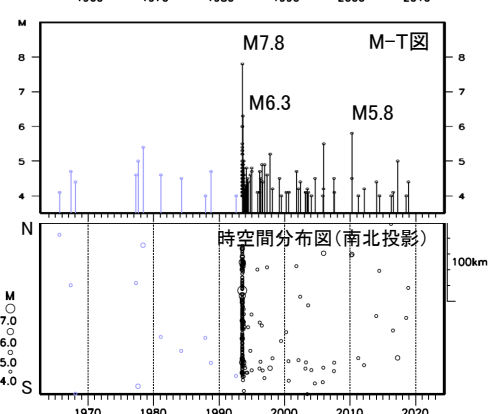
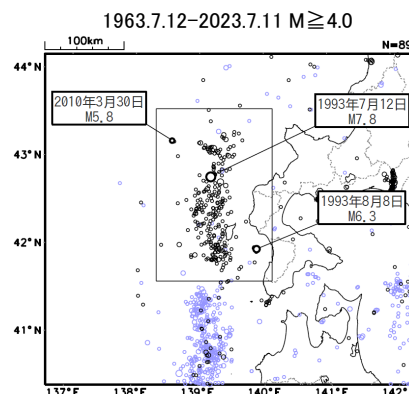
(M7.5, 最大震度5)

1964年6月16日より前の
地震を水色で表示「昭和58年(1983年)
日本海中部地震」

(M7.7, 最大震度5)

1983年5月26日より前の
地震を水色で表示「平成5年(1993年)
北海道南西沖地震」

(M7.8, 最大震度5)

1993年7月12日より前の
地震を水色で表示

第 2 図 (h) つづき

Fig. 2(h) Continued.

1月13日 石川県能登地方の地震

（「令和6年能登半島地震」の地震活動）

震央分布図

(2020 年 12 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～30km、 $M \geq 3.0$)

震源のプロット

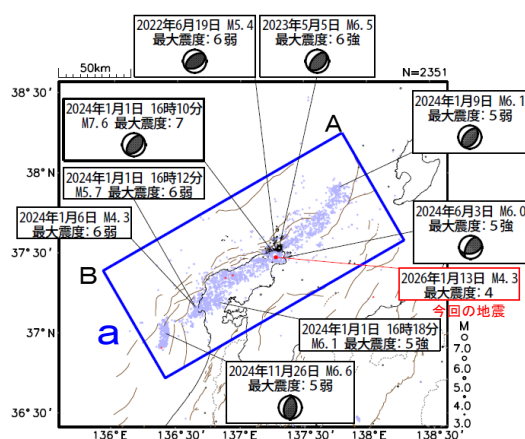
黒色 2020 年 12 月 1 日～2023 年 12 月 31 日

水色 2024 年 1 月 1 日~2025 年 12 月 31 日

赤色 2026 年 1 月 1 日~31 日

吹き出しは最大震度6弱以上の地震、M6.0以上の地震
及び今回の地震

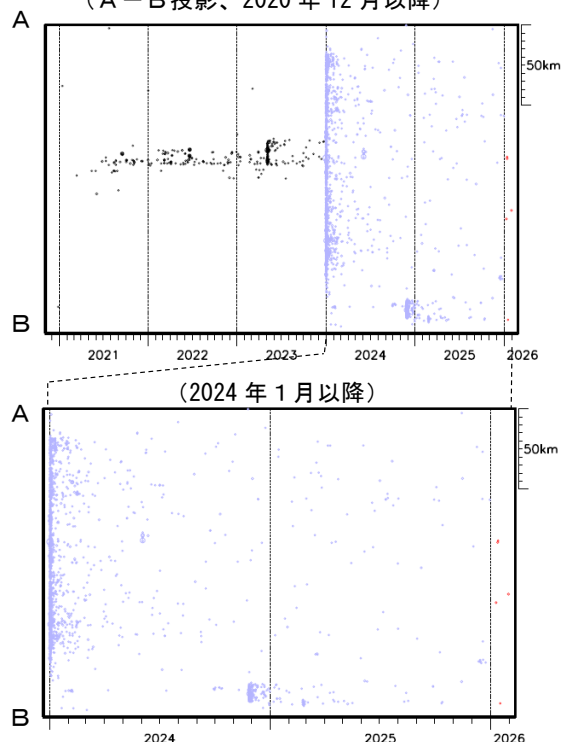
図中の発震機構は CMT 解



図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

領域 a 内の時空間分布図

(A-B投影, 2020年12月以降)



2026 年 1 月 13 日 05 時 09 分に石川県能登地方の深さ 12km で M4.3 の地震（最大震度 4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。

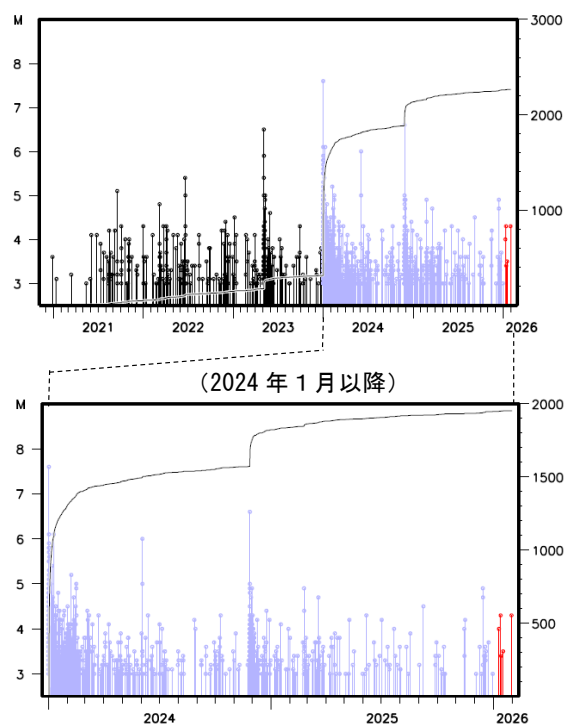
能登半島では 2020 年 12 月から地震活動が活発になり、2023 年 5 月 5 日には M6.5 の地震（最大震度 6 強）が発生していた。2023 年 12 月までの活動域は、能登半島北東部の概ね 30km 四方の範囲であった。

2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震（最大震度7）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。M7.6の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日にM6.6の地震（最大震度5弱）が発生した。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、1月中に震度1以上を観測した地震は9回発生するなど、地震活動が活発になった2021年以前と比較すると活発な状態が継続している（次ページ参照）。

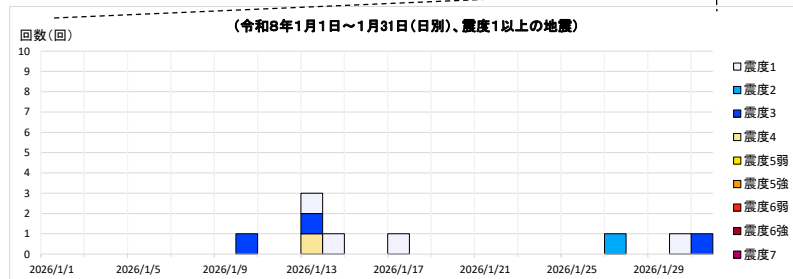
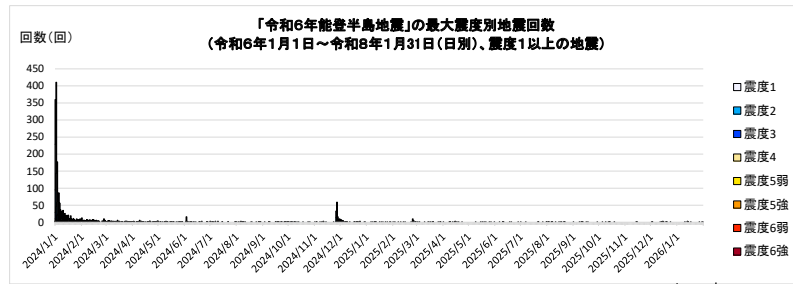
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

(2020 年 12 月以降)

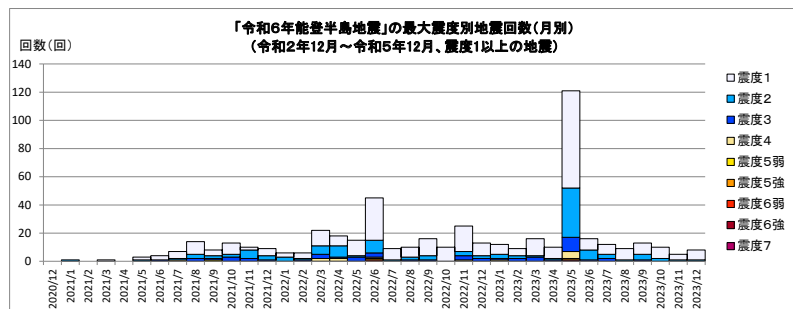


第2図 (i) つづき

Fig. 2(i) Continued.



【令和2(2020)年12月～令和5(2023)年12月の発生回数(月別)】



【令和2(2020)年12月以降の発生回数(年別)】

年別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
2020/12/1 - 12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2021/1/1 - 12/31	39	19	10	1	1	0	0	0	0	70	70		
2022/1/1 - 12/31	130	39	18	6	0	1	1	0	0	195	265		
2023/1/1 - 12/31	151	61	21	6	0	1	0	1	0	241	506	2023/6/1～ 12/31の震度1 以上を観測した 回数 合計79回 月平均10.4回 月中央値10.0回	
総計(2020～2023)	320	119	49	13	1	2	1	1	0		506		

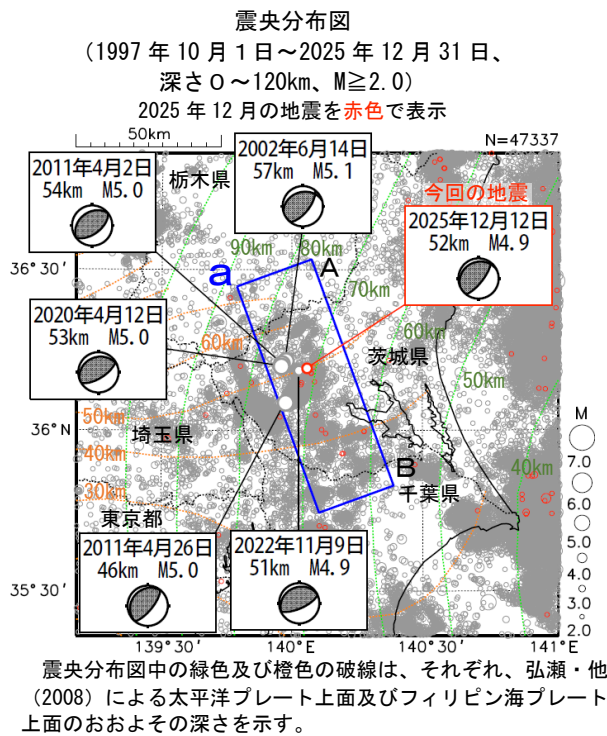
2020～2023	320	119	49	13	1	2	1	1	0	506	506
2024/1/1 - 31	941	395	159	45	7	8	2	0	1	1558	2064
2024/2/1 - 29	95	34	12	3	0	0	0	0	0	144	2208
2024/3/1 - 31	49	17	4	0	0	0	0	0	0	70	2278
2024/4/1 - 30	32	9	4	0	0	0	0	0	0	45	2323
2024/5/1 - 31	20	6	2	0	0	0	0	0	0	28	2351
2024/6/1 - 30	27	5	1	1	0	1	0	0	0	35	2386
2024/7/1 - 31	16	3	1	0	0	0	0	0	0	20	2406
2024/8/1 - 31	13	4	1	0	0	0	0	0	0	18	2424
2024/9/1 - 30	14	4	0	0	0	0	0	0	0	18	2442
2024/10/1 - 31	8	6	0	0	0	0	0	0	0	14	2456
2024/11/1 - 30	88	41	5	1	1	0	0	0	0	136	2592
2024/12/1 - 31	24	12	1	0	0	0	0	0	0	37	2629
2025/1/1 - 31	8	2	2	0	0	0	0	0	0	12	2641
2025/2/1 - 28	18	5	2	0	0	0	0	0	0	25	2666
2025/3/1 - 31	7	3	1	1	0	0	0	0	0	12	2678
2025/4/1 - 30	10	2	0	0	0	0	0	0	0	12	2690
2025/5/1 - 31	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2698
2025/6/1 - 30	6	1	0	0	0	0	0	0	0	7	2705
2025/7/1 - 31	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2711
2025/8/1 - 31	12	1	0	0	0	0	0	0	0	13	2724
2025/9/1 - 30	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2732
2025/10/1 - 31	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6	2738
2025/11/1 - 30	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2741
2025/12/1 - 31	8	3	1	1	0	0	0	0	0	13	2754
2026/1/1 - 31	4	1	3	1	0	0	0	0	0	9	2763
総計(2020/12/1～2026/1/31)	1745	677	250	66	9	11	3	1	1	2763	2763

※2024/1/1以降は地震活動の領域が広がったことから、対象領域を拡大して地震回数をカウントしている。

第 2 図 (j) つづき

Fig. 2(j) Continued.

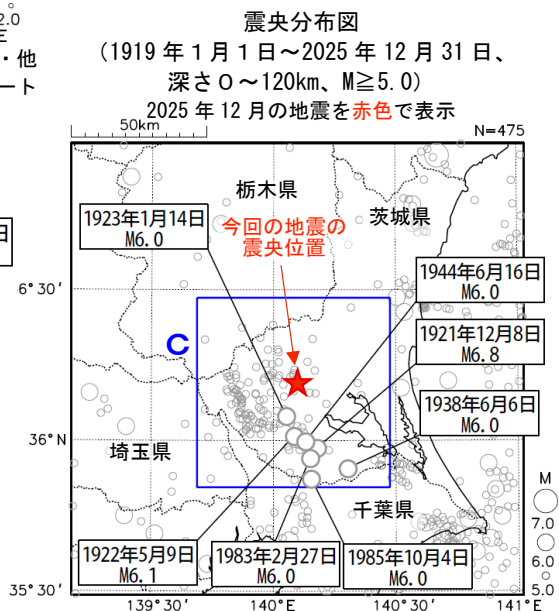
12 月 12 日 茨城県南部の地震



2025 年 12 月 12 日 19 時 05 分に茨城県南部の深さ 52km で $M4.9$ の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震の発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域 b) は、地震活動が活発な領域であり、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、「東北地方太平洋沖地震」) の発生以降、地震活動がより活発になっている。この領域では、2022 年 11 月 9 日には $M4.9$ の地震 (最大震度 5 強) が発生し、負傷者 1 人の被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、 $M6.0$ 以上の地震がまれに発生している。1921 年 12 月 8 日には $M6.8$ の地震が発生し、土蔵破損や道路の亀裂などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。



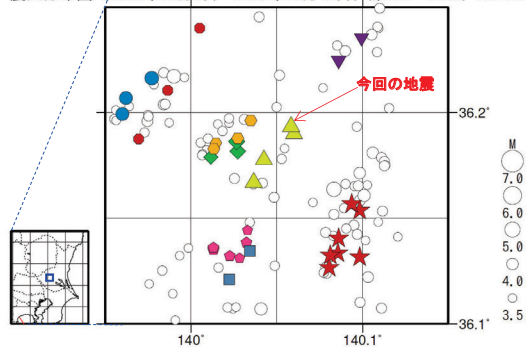
第 3 図 (a) 2025 年 12 月 12 日 茨城県南部の地震

Fig. 3(a) The earthquake in the southern part of Ibaraki Prefecture on December 12, 2025.

12月12日の茨城県南部の地震（相似地震）

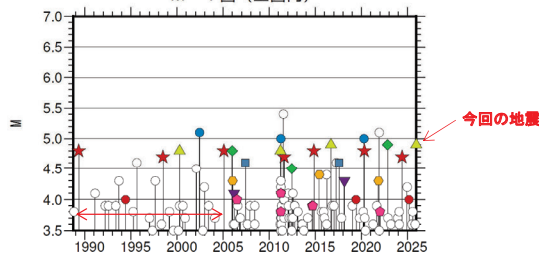
茨城県南部で発生した2025年12月12日(M4.9、最大震度4)の地震について、
強震波形による相関解析を行った結果、既往の相似地震グループの最新の相似地震として検出された(グループH)^{※1}。

震央分布図 (1988年10月1日～2025年12月12日、深さ0～80km、M $\geq$ 3.5)



グループ	回数	平均M	震度		発生間隔			平均すべり量 (cm/年) ^{※2}
			最大	最小	平均	最短	最大	
★ A	7	4.76	4	3	5.84	3.24	9.13	6.72
● B	3	5.03	A	4	8.91	8.80	9.03	5.03
◆ C	3	4.73	B	3	8.43	6.47	10.40	4.45
● D	4	4.28	4	3	5.27	4.17	6.42	5.67
▼ E	2	4.20	3	3	11.96	11.96	11.96	2.49
◆ F	6	3.92	3	3	3.10	0.00	7.27	7.98
■ G	2	4.60	4	4	10.17	10.17	10.17	3.49
▲ H	4	4.85	A	4	8.56	5.46	10.95	4.96
● I	3	4.00	3	2	15.38	5.74	25.02	1.43

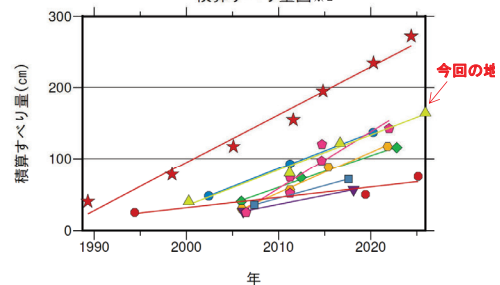
M-T図 (上図内)



赤矢印の期間は波形収束基準と観測点密度の違いが相似地震検出に影響している可能性がある。

※1 各観測点の波形の比較で得られたコヒーレンスの中央値が0.95以上の場合に相似地震として検出し、相似地震のグループ分けはコヒーレンスを用いて機械的に行っている[溜淵ほか、2014]。

※2 すべり量推定には、モーメントマグニチュードと地震モーメントの関係式[Hanks and Kanamori(1979)]及び地震モーメントとすべり量の関係式[Nadeau and Johnson(1998)]を使用。得られた積算すべり量と経過時間から最小自乗法を用いてグループ毎の年平均すべり量を求めた。

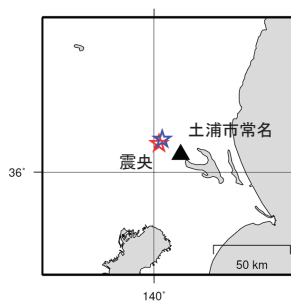
積算すべり量図^{※2}

● 波形例

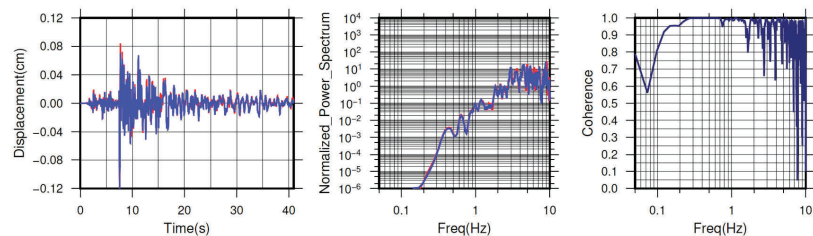
観測点名: 土浦市常名

2016/09/07 13:28:50 M4.9

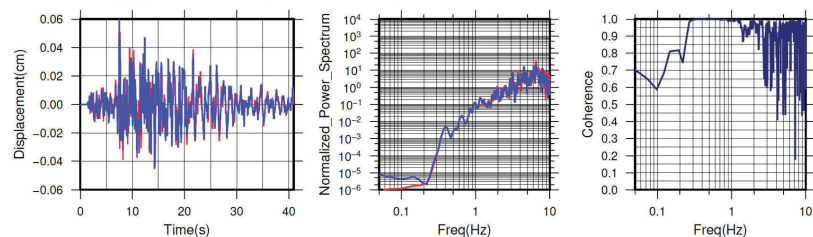
2025/12/12 19:05:19 M4.9



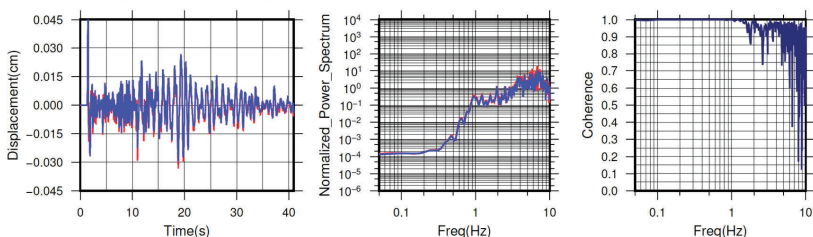
N S成分: Cohr=0.99 (0.32 - 1.29 Hz)



E W成分: Cohr=0.99 (0.32 - 1.29 Hz)



U D成分: Cohr=1.00 (0.32 - 1.29 Hz)



※変位波形は加速度記録を気象庁59型地震計相当に変換したもの

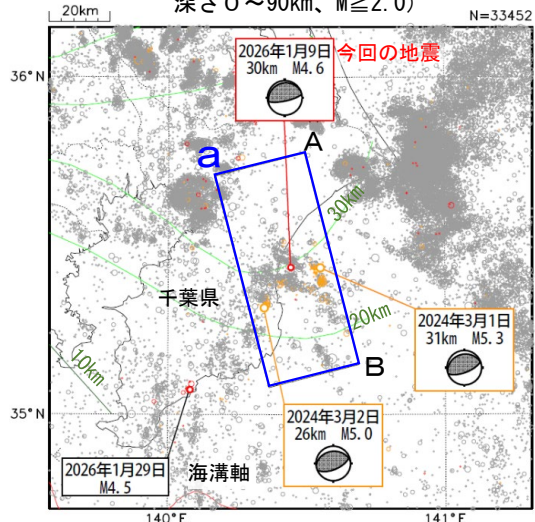
第3図(b) つづき

Fig. 3(b) Continued.

1 月 9 日 千葉県東方沖の地震

震央分布図

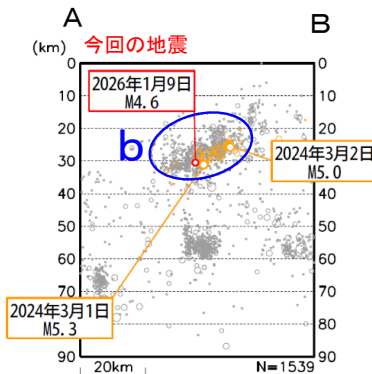
(1997 年 10 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～90km、 $M \geq 2.0$)



1997 年 10 月 1 日から 2024 年 2 月 25 日までを灰色
2024 年 2 月 26 日から 2024 年 3 月 25 日までを橙色
2024 年 3 月 26 日から 2025 年 12 月 31 日までを灰色
2026 年 1 月 1 日以降を赤色で表示

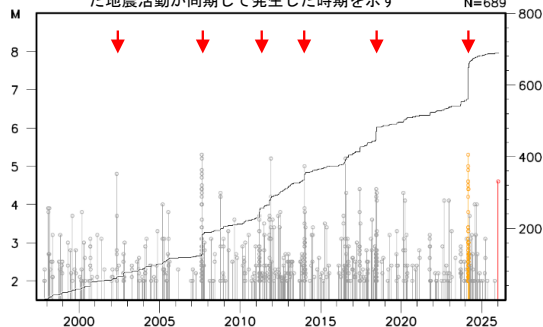
震央分布図中の緑色の破線は、弘瀬・他 (2008) による
フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



領域 b 内の M-T 図及び回数積算図

赤矢印はプレート境界でゆっくりすべりとまとまった地震活動が同期して発生した時期を示す



情報発表に用いた震央地名は「千葉県北東部」である。

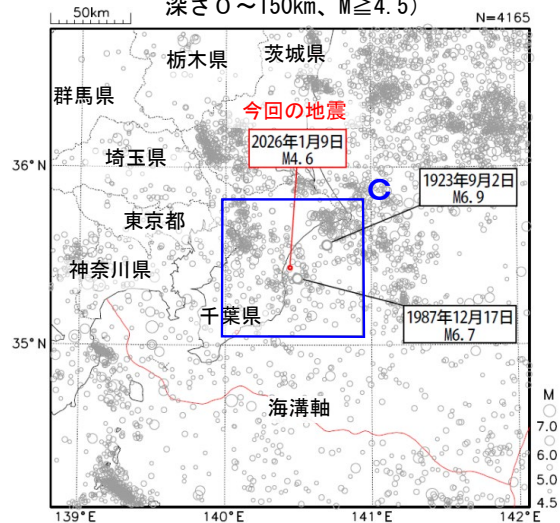
2026 年 1 月 9 日 20 時 07 分に千葉県東方沖の深さ 30km で $M 4.6$ の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震の発震機構は、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近 (領域 b) では時々、プレート境界で発生したゆっくりすべり (国土地理院及び防災科学技術研究所による) を伴うまとまった地震活動がある。2024 年の地震活動では、2 月 26 日から地震活動が見られ、3 月 1 日に $M 5.3$ の地震 (最大震度 4) の地震が発生するなど、3 月 25 日までに震度 1 以上を観測した地震が 48 回発生した。

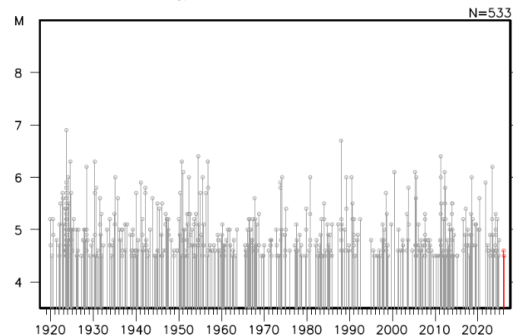
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。1987 年 12 月 17 日に発生した $M 6.7$ の地震 (最大震度 5) では、死者 2 人、負傷者 161 人、住家全壊 16 棟、住家半壊 102 棟、住家一部破損 72,580 棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図

(1919 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～150km、 $M \geq 4.5$)



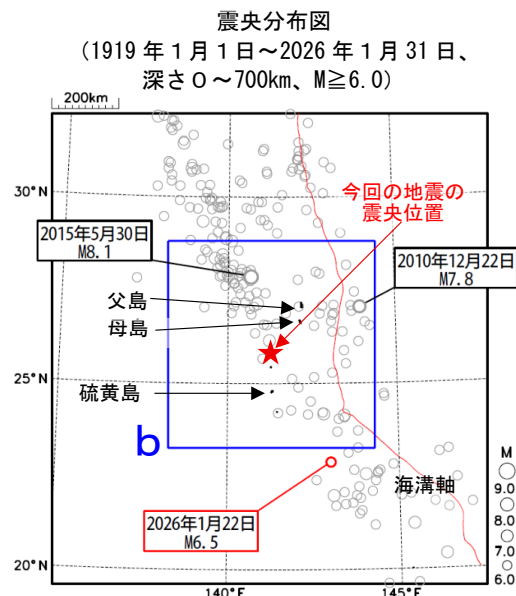
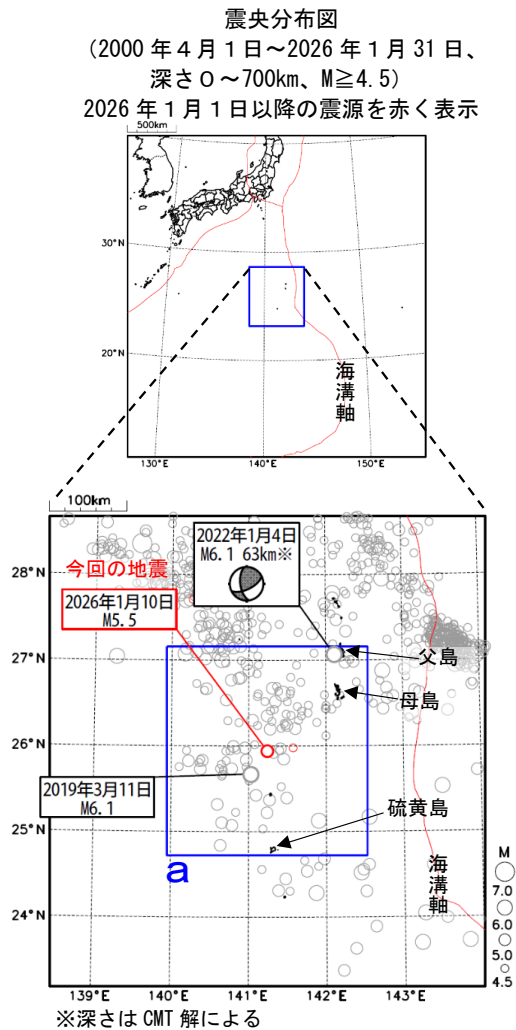
領域 c 内の M-T 図



第 4 図 2026 年 1 月 9 日 千葉県東方沖の地震

Fig. 4 The earthquake in the east off Chiba Prefecture on January 9, 2026.

1 月 10 日 硫黄島近海の地震



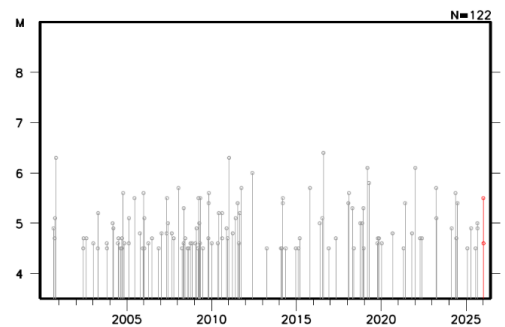
2026 年 1 月 10 日 08 時 51 分に硫黄島近海で $M5.5$ の地震（最大震度 3）が発生した。

2000 年 4 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域 a）では、 $M6$ 程度の地震が時々発生している。2022 年 1 月 4 日には $M6.1$ の地震（最大震度 5 強）が発生し、1 月 31 日までに震度 1 以上を観測する地震が 14 回（震度 5 強：1 回、震度 2：3 回、震度 1：10 回）発生した。

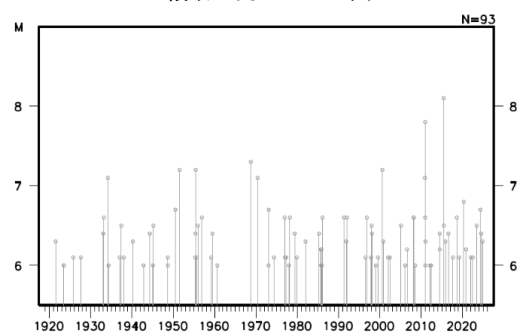
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 b）では、 $M7.0$ 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で $M7.8$ の地震（最大震度 4）が発生し、八丈島八重根で 0.5m^(注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年 5 月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で $M8.1$ の地震（最大震度 5 強）が発生し、関東地方で軽傷者 8 人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

（注）巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は 0.1m）。

領域 a 内の M-T 図



領域 b 内の M-T 図

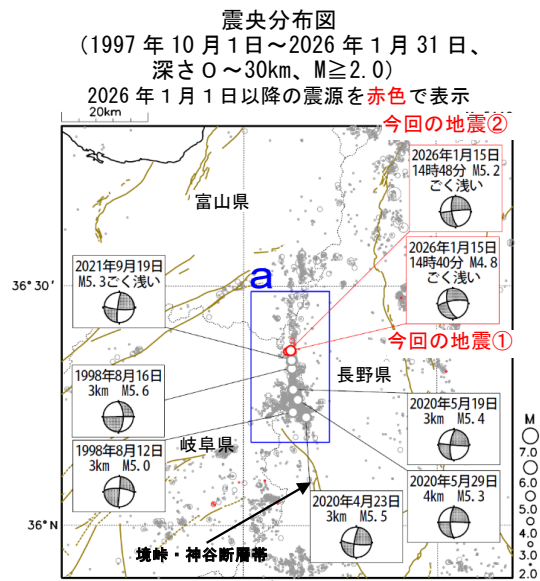


第 5 図 2026 年 1 月 10 日 硫黄島近海の地震

Fig. 5 The earthquake near Ito island on January 10, 2026.

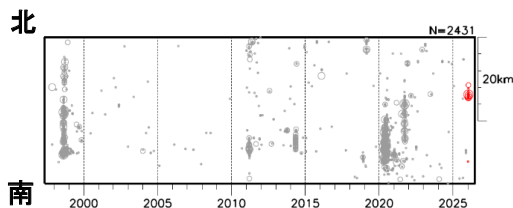
1 月 15 日 岐阜県飛騨地方の地震 (長野・岐阜県境付近の地震)

14 時 40 分に発生した M4.8 の地震の情報発表に用いた震央地名は「富山県東部」である。



図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。

領域 a 内の時空間分布図（南北投影）

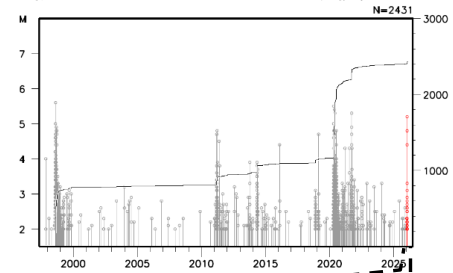


2026 年 1 月 15 日 14 時 40 分に岐阜県飛騨地方のごく浅い場所で M4.8 の地震（最大震度 4、図中①）が発生した。この地震の後、同日 14 時 48 分にほぼ同じ場所で M5.2 の地震（最大震度 3、図中②）が発生した。これらの地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震は地殻内で発生した。今回の地震の震央付近では、1 月中に震度 1 以上を観測する地震が 8 回（震度 4：1 回、震度 3：1 回、震度 2：3 回、震度 1：3 回）発生した。

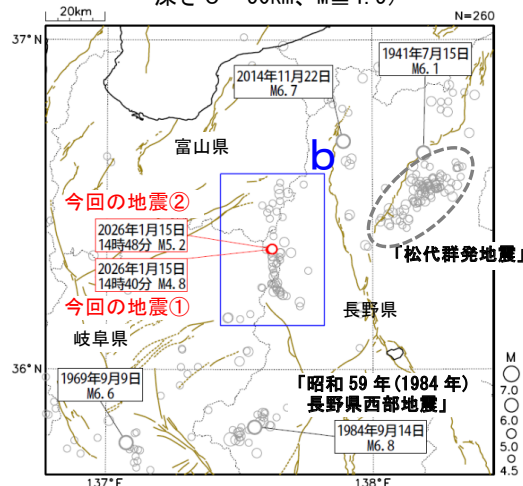
1997 年 10 月以降の活動をみると、領域 a では時々まとまった地震活動がある。1998 年の地震活動では、8 月 12 日に M5.0（最大震度 5 弱）の地震が発生するなど、8 月 1 日から 10 月 31 日までに震度 1 以上を観測した地震が 284 回発生した。また 2020 年の地震活動では、4 月 23 日に M5.5（最大震度 4）の地震が発生するなど、4 月 1 日から 7 月 31 日までに震度 1 以上を観測する地震が 225 回発生した。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 b）では、M5 程度の地震が時々発生しているものの、M6.0 以上の地震は発生していない。

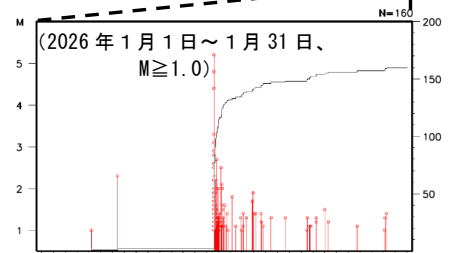
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



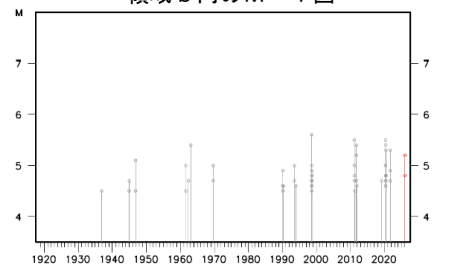
震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～50km、 $M \geq 4.5$)



図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。



領域 b 内の M-T 図

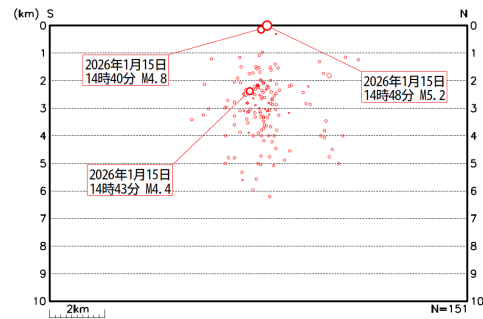
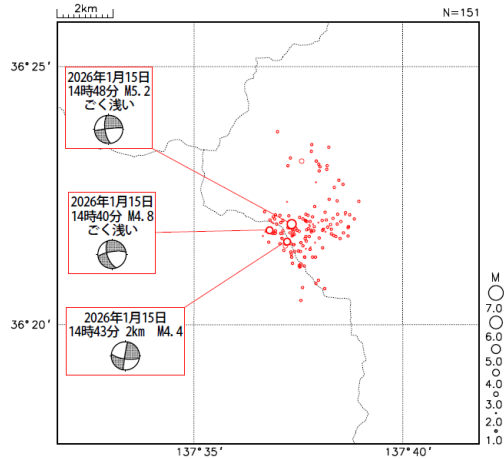


第 6 図 (a) 岐阜県飛騨地方の地震

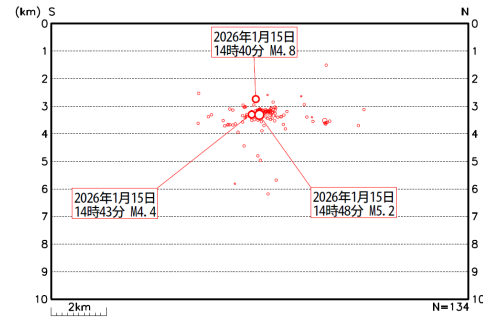
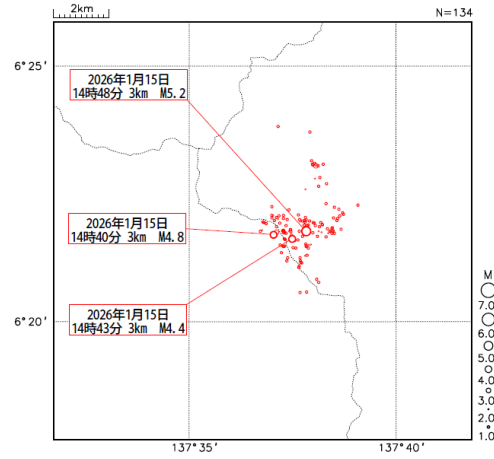
Fig. 6(a) The earthquake in The Hida area, Gifu Prefecture.

1月15日 岐阜県飛騨地方の地震

上図：一元化震源の震央分布図(2026年1月1日～25日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-10km)
下図：一元化震源の断面図（南北投影）



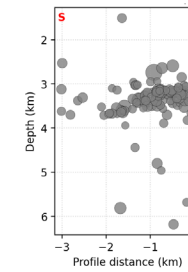
上図：DD震源の震央分布図(2026年1月1日～25日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-10km)
下図：DD震源の断面図（南北投影）



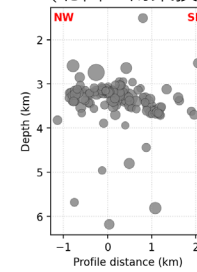
1月1日から25日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。

DD震源の各方面からの断面図

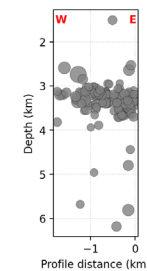
断面図（南北投影）



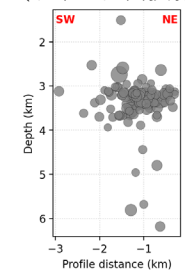
断面図
(北西-南東投影)



断面図（東西投影）



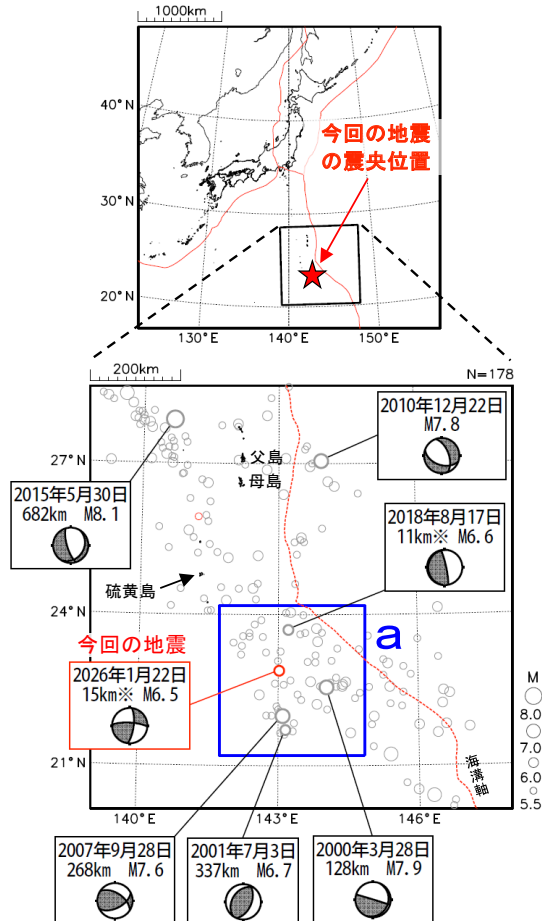
断面図
(北東-南西投影)



第6図(b) つづき
Fig. 6(b) Continued.

1 月 22 日 硫黄島近海の地震

震央分布図
(2000 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～700km、 $M \geq 5.5$)
2026 年 1 月の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解
深さに「※」を付したものは、CMT 解による



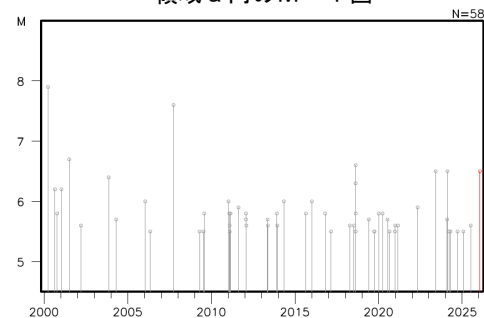
2026 年 1 月 22 日 01 時 37 分に硫黄島近海の深さ 15km (CMT 解による) で M6.5 の地震 (震度 1 以上を観測した地点はなし) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2000 年 1 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 a) では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

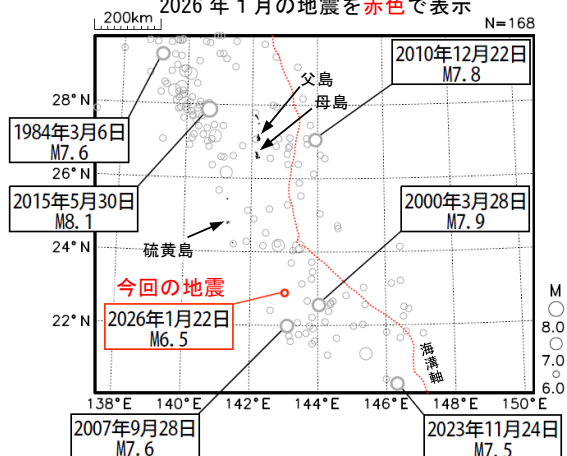
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震 (最大震度 4) が発生し、八丈島八重根で 0.5m (注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年 5 月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震 (最大震度 5 強) が発生し、関東地方で軽傷者 8 人などの被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。

(注) 巨大津波計の観測点により観測されたことを示す (観測単位は 0.1m)。

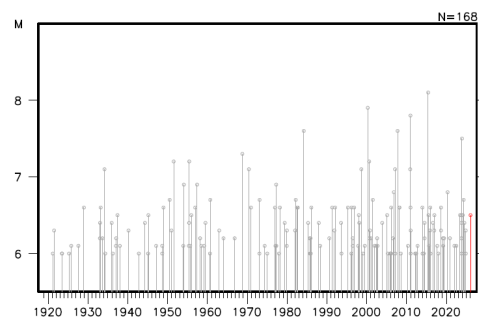
領域 a 内の M-T 図



震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～700km、 $M \geq 6.0$)
2026 年 1 月の地震を赤色で表示



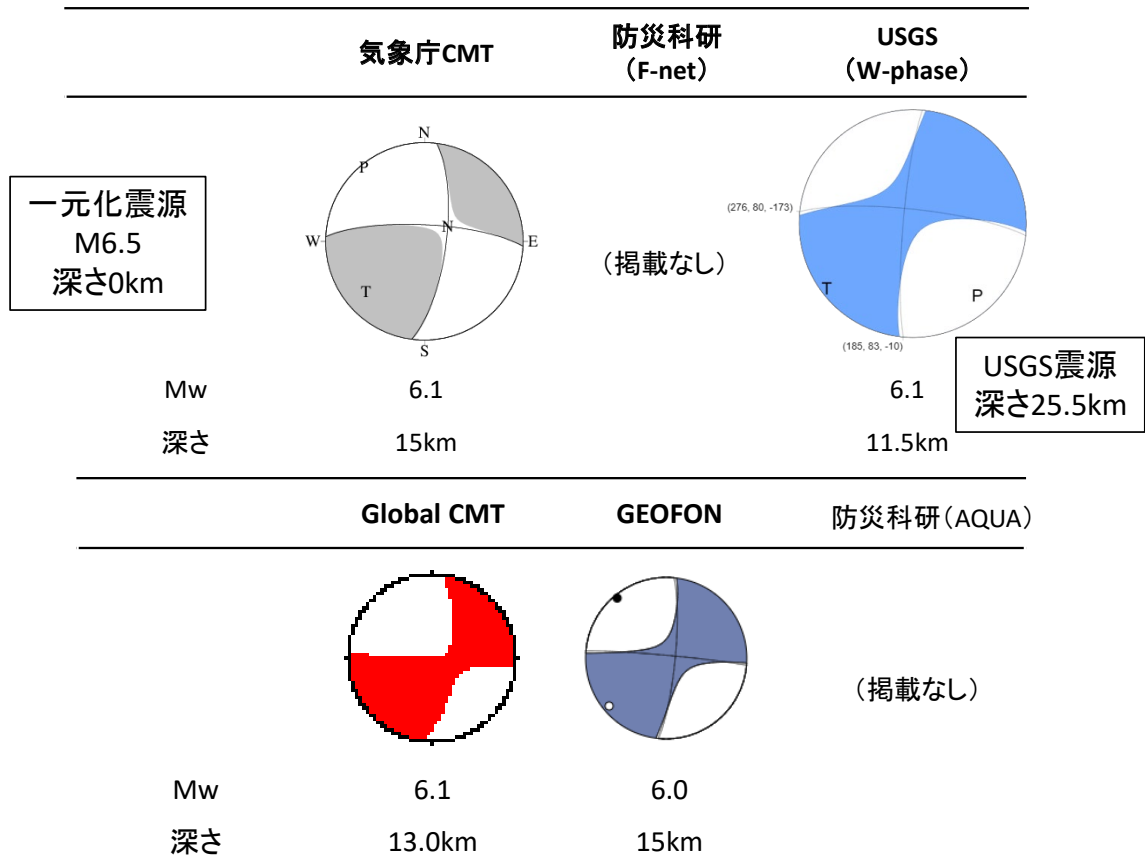
左図の領域内の M-T 図



第 7 図 (a) 2026 年 1 月 22 日 硫黄島近海の地震

Fig. 7(a) The earthquake near Ioto island on January 22, 2026.

1月22日 硫黄島近海の地震(各機関のMT解)



防災科研(F-net) : <https://www.fnet.bosai.go.jp/event/joho.php?LANG=ja>

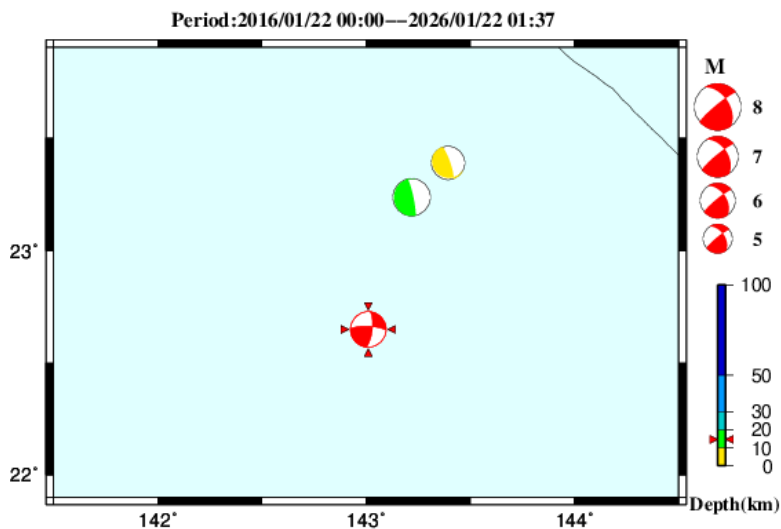
USGS(W-phase) : <https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/map/>

Global CMT : <https://www.globalcmt.org/CMTsearch.html>

GEOFON MT : <https://geofon.gfz-potsdam.de/eqinfo/list.php?mode=mt>

防災科研(AQUA) : https://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua_catalogue.php?LANG=ja

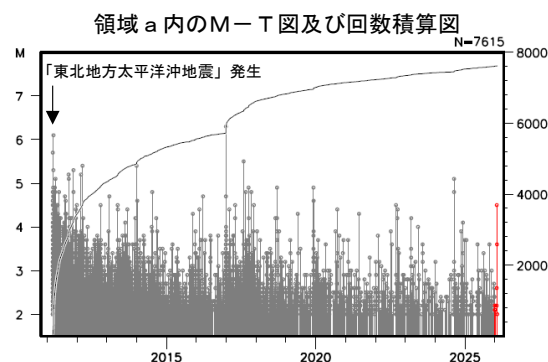
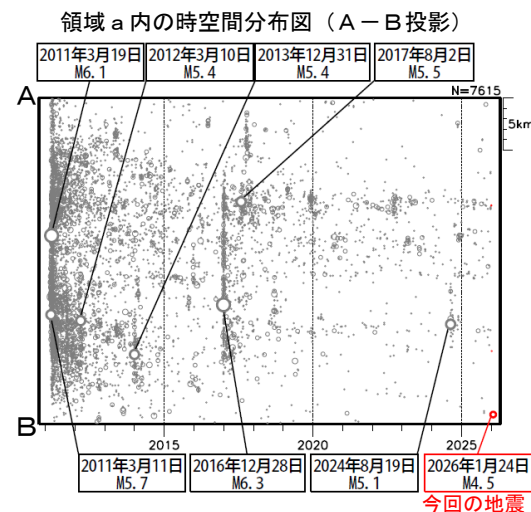
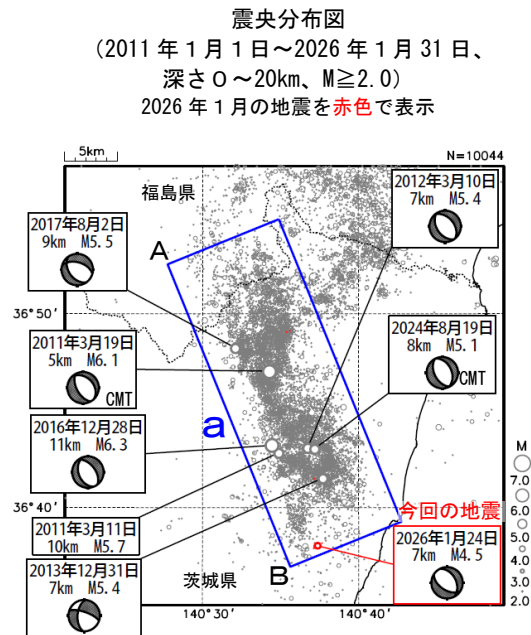
周辺の気象庁CMT解の分布図



第 7 図 (b) つづき

Fig. 7(b) Continued.

1 月 24 日 茨城県北部の地震

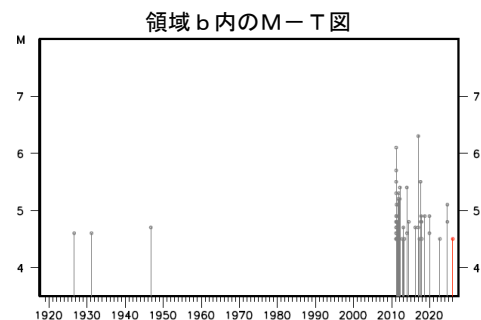
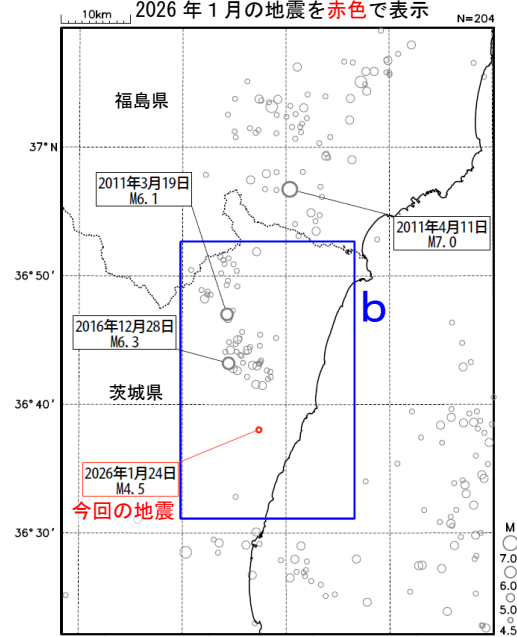


2026 年 1 月 24 日 06 時 19 分に茨城県北部の深さ 7 km で M4.5 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は北東—南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

今回の地震の震央周辺 (領域 a) では、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、「東北地方太平洋沖地震」) の発生後に地震活動が活発化し、2016 年 12 月 28 日に発生した M6.3 の地震 (最大震度 6 弱) では、茨城県で軽傷 2 人、住家半壊 1 棟、一部破損 25 棟などの被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。この活発な地震活動は徐々に減衰しつつも継続している。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 b) では、「東北地方太平洋沖地震」の発生前は M4.5 以上の地震がまれに発生していて、「東北地方太平洋沖地震」の発生後は M4.5 以上の地震が度々発生している。

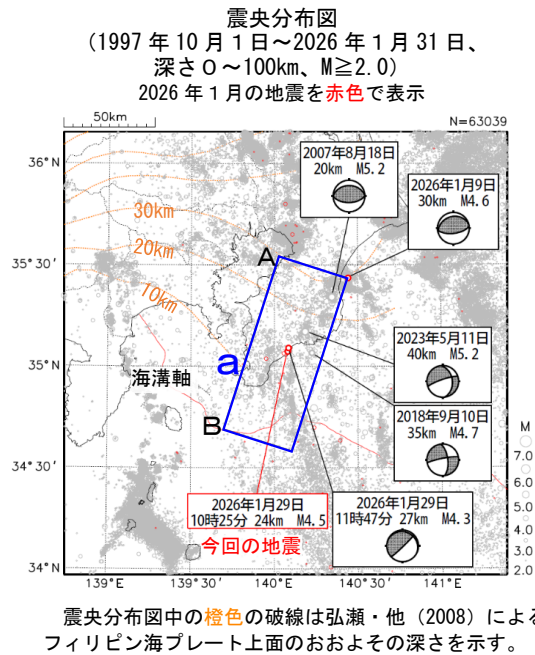
震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～50km、 $M \geq 4.5$)
2026 年 1 月の地震を赤色で表示



第 8 図 2026 年 1 月 24 日 茨城県北部の地震

Fig. 8 The earthquake in the northern part of Ibaraki Prefecture. on January 24, 2026.

1 月 29 日 千葉県南部の地震

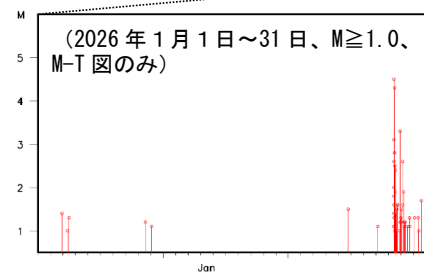
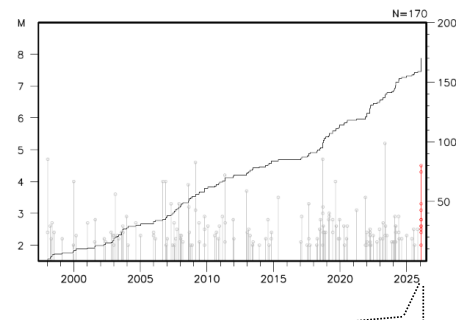


2026 年 1 月 29 日 10 時 25 分に千葉県南部の深さ 24km で M4.5 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。今回の地震の震源付近では、29 日中に震度 1 以上を観測する地震が 6 回 (震度 4 : 1 回、震度 3 : 1 回、震度 2 : 1 回、震度 1 : 2 回) 発生した。

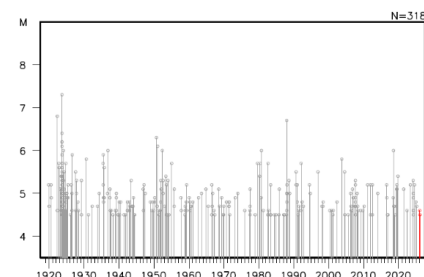
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域 b) では、M4.0 以上の地震が時々発生している。2023 年 5 月 11 日には M5.2 の地震 (最大震度 5 強) が発生した。この地震により、負傷者 8 人、住家一部破損 77 棟の被害が生じた (2024 年 3 月 6 日 17 時 00 分現在、総務省消防庁による)。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では M6.0 以上の地震が時々発生している。1987 年 12 月 17 日には M6.7 (最大震度 5) の地震が発生した。この地震により、死者 2 人、負傷者 161 人、住家全壊 16 棟、住家半壊 102 棟、住家一部破損 7 万余棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 c 内の M-T 図

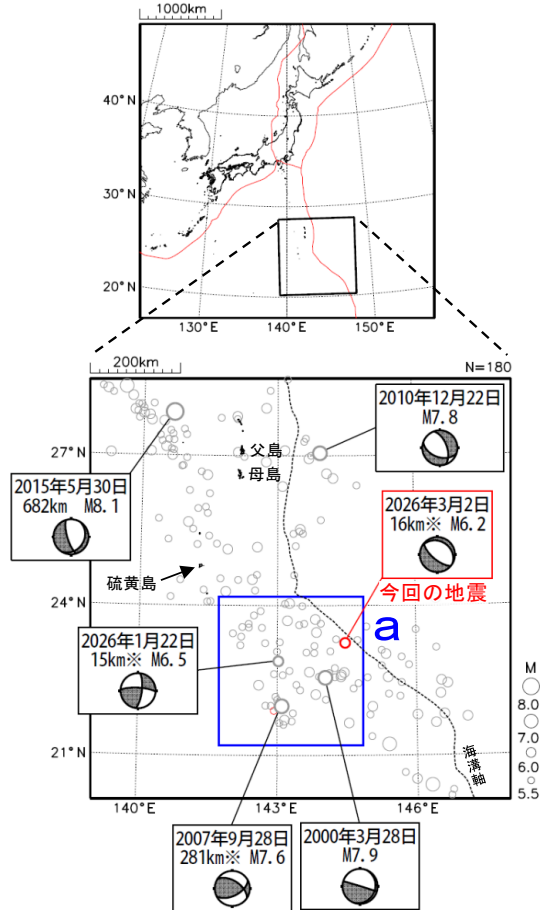


第 9 図 2026 年 1 月 29 日 千葉県南部の地震

Fig. 9 The earthquake in the southern part of Chiba Prefecture. on January 29, 2026.

3月2日 硫黄島近海の地震

震央分布図
(2000年1月1日～2026年3月31日、
深さ0～700km、 $M \geq 5.5$)
2026年3月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解
深さに「※」を付したものは、CMT解による

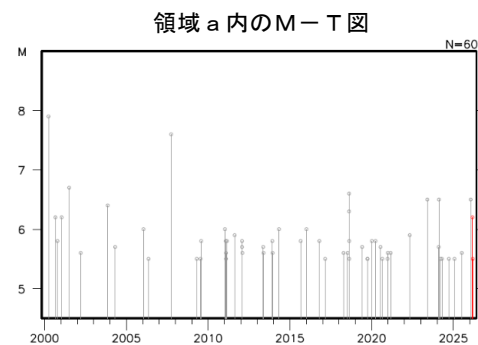


2026 年 3 月 2 日 12 時 55 分に硫黄島近海の深さ 16km (CMT 解による) で M6.2 の地震 (震度 1 以上を観測した地点はなし) が発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

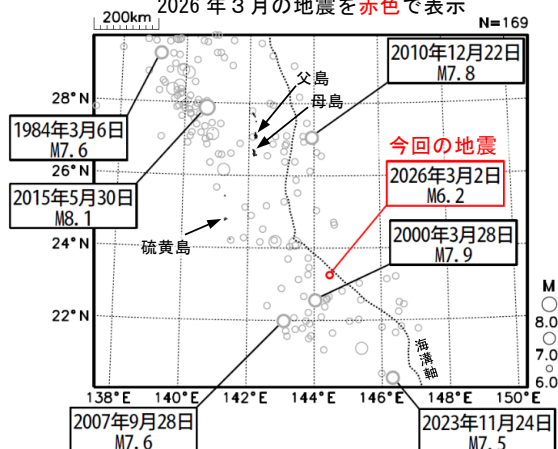
2000 年 1 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域 a）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震（最大震度 4）が発生し、八丈島八重根で 0.5m^(注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年 5 月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震（最大震度 5 強）が発生し、関東地方で軽傷者 8 人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

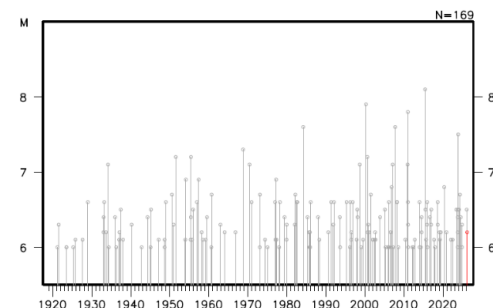
(注) 巨大津波計の観測点により観測されたことを示す(観測単位は0.1m)。



震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 3 月 31 日、
深さ 0～700km、 $M \geq 6.0$)
2026 年 3 月の地震を赤色で表示



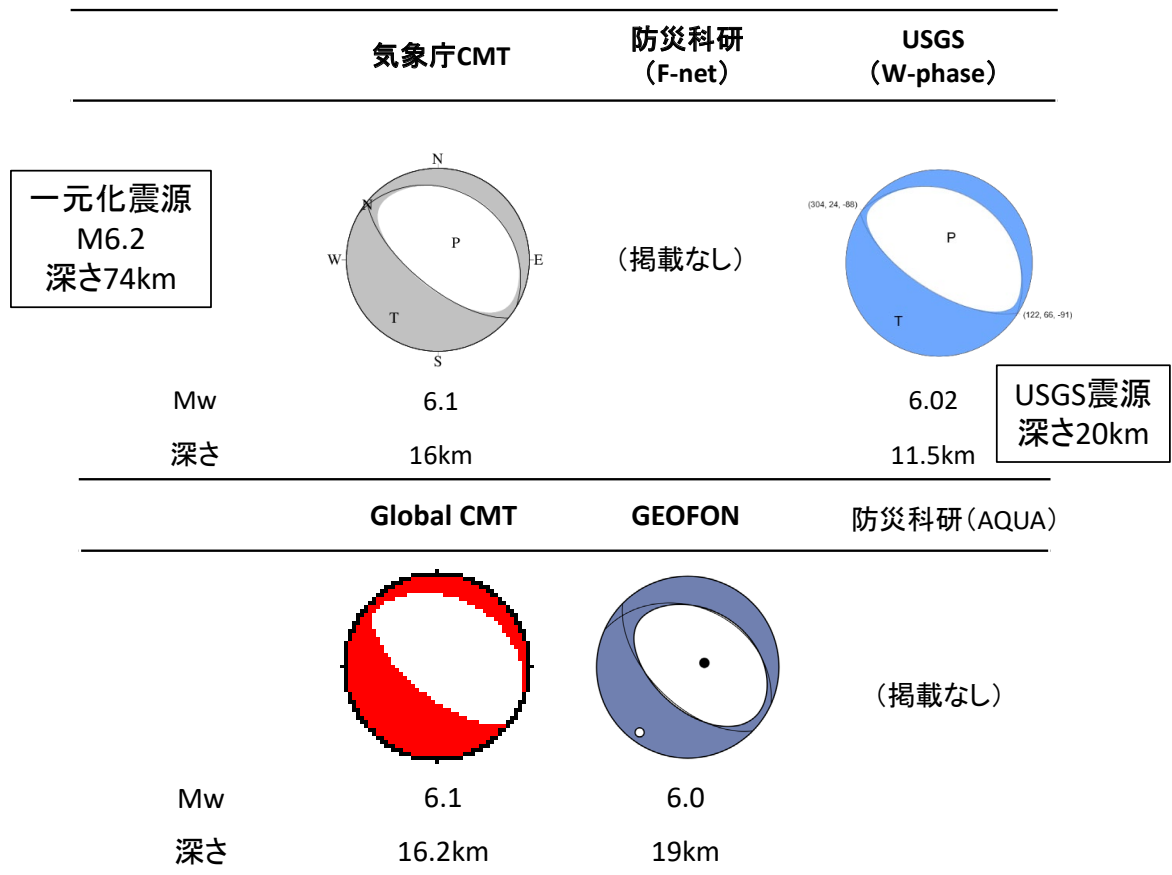
左図の領域内のM-T図



第 10 図 (a) 2026 年 3 月 2 日 硫黄島近海の地震

Fig. 10(a) The earthquake near Ioto island on March 2, 2026.

3月2日12時55分 硫黄島近海の地震(各機関のMT解)



防災科研 (F-net) : <https://www.fnet.bosai.go.jp/event/joho.php?LANG=ja>

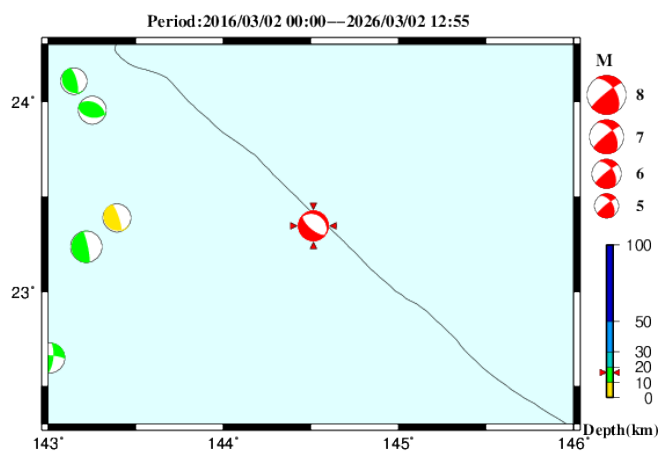
USGS (W-phase) : <https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/map/>

Global CMT : <https://www.globalcmt.org/CMTsearch.html>

GEOFON MT : <https://geofon.gfz-potsdam.de/eqinfo/list.php?mode=mt>

防災科研 (AQUA) : https://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua_catalogue.php?LANG=ja

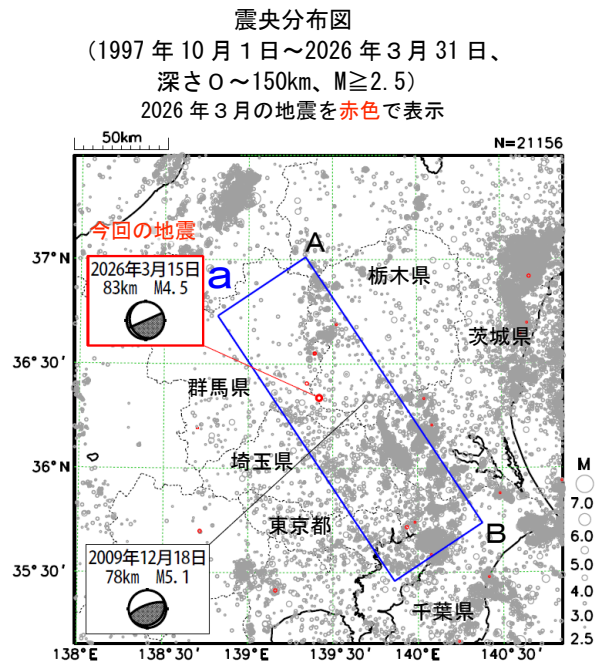
周辺の気象庁CMT解の分布図



第 10 図 (b) つづき

Fig. 10(b) Continued.

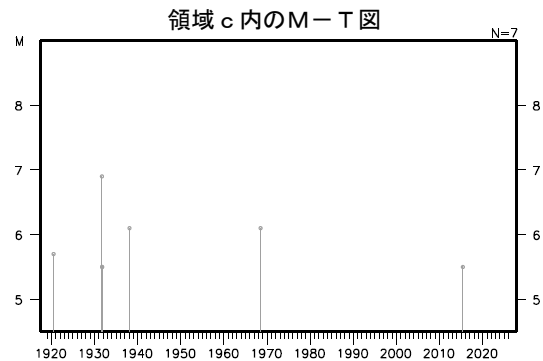
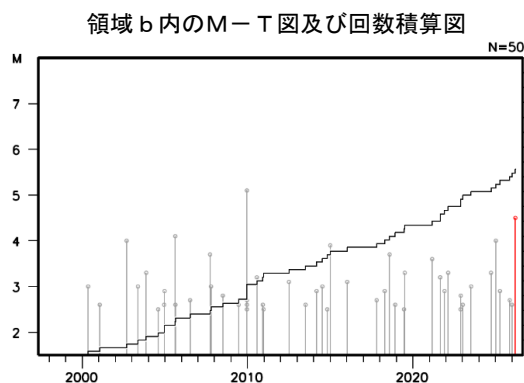
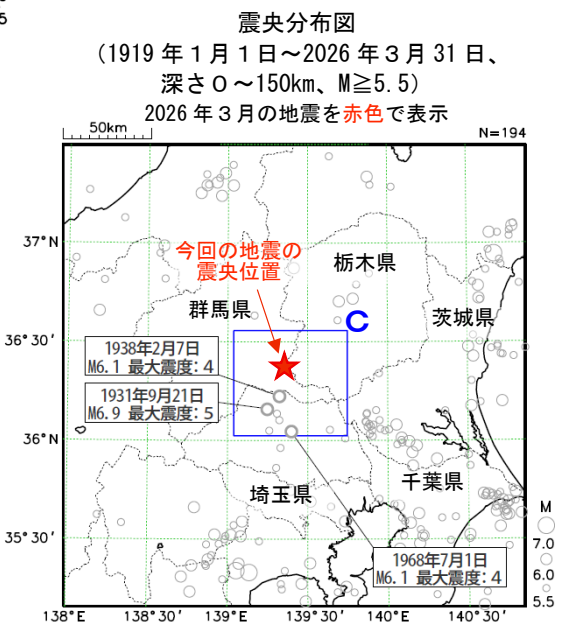
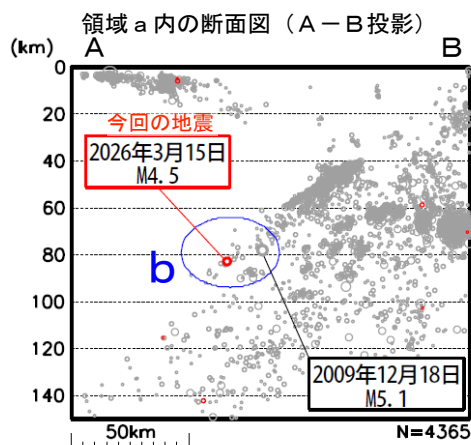
3 月 15 日 群馬県南部の地震



2026 年 3 月 15 日 14 時 06 分に群馬県南部の深さ 83km で M4.5 の地震（最大震度 3）が発生した。この地震の発震機構は、フィリピン海プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域 b）では M4.0 以上の地震が時々発生している。2009 年 12 月 18 日には深さ 78km で M5.1 の地震（最大震度 4）が発生している。

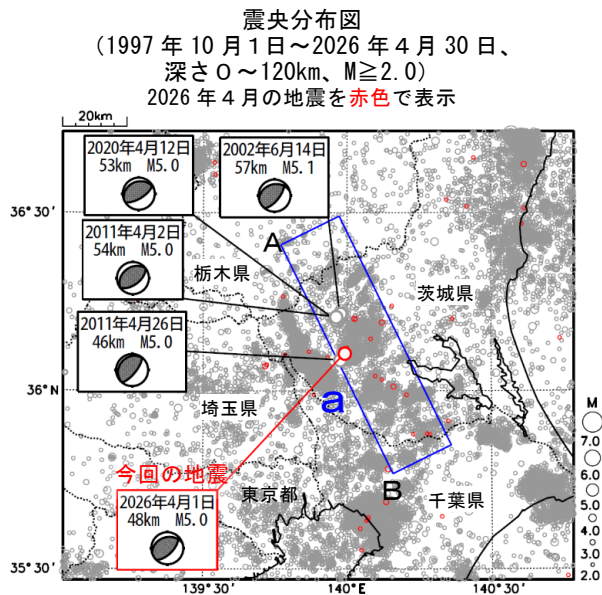
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、M6.0 以上の地震がまれに発生している。1931 年 9 月 21 日には M6.9 の地震（最大震度 5）が発生し、死者 16 人、負傷者 146 人、住家全壊 76 棟、住家半壊 124 棟などの被害が生じた。（被害は「日本被害地震総覧」による。）



第 11 図 2026 年 3 月 15 日 群馬県南部の地震

Fig. 11 The earthquake in the southern part of Gunma Prefecture. on March 15, 2026.

4 月 1 日 茨城県南部の地震

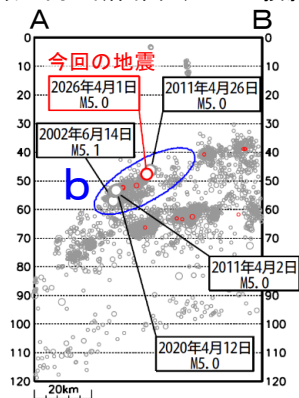


2026 年 4 月 1 日 10 時 06 分に茨城県南部の深さ 48km で $M5.0$ の地震（最大震度 5 弱）が発生した。この地震は、発震機構が北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

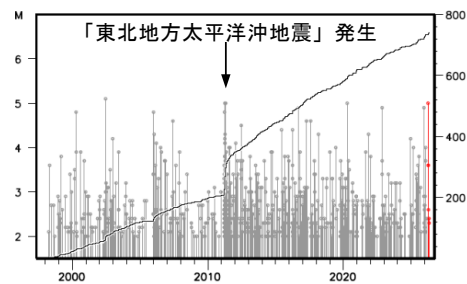
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域 b）は $M5$ 程度の地震が時々発生していた。2002 年 6 月 14 日に $M5.1$ の地震（最大震度 4）が発生し、負傷者 1 人などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）発生以降、より活発になり $M5.0$ 以上の地震がしばしば発生している。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域 c）では、 $M6.0$ 以上の地震が時々発生している。1921 年 12 月 8 日には $M6.8$ （最大震度 4）の地震が発生した。

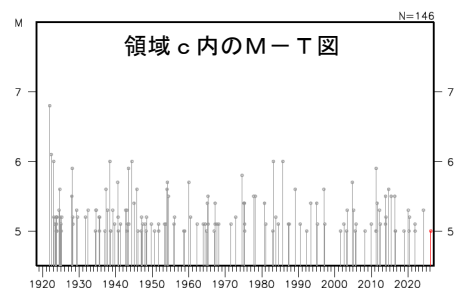
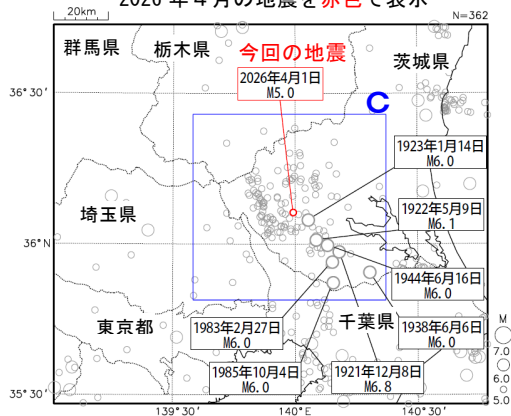
領域 a 内の断面図（A—B 投影）



領域 b 内の M—T 図及び回数積算図



震央分布図
(1919 年 1 月 1 日～2026 年 4 月 30 日、
深さ 0～120km、 $M \geq 5.0$)
2026 年 4 月の地震を赤色で表示

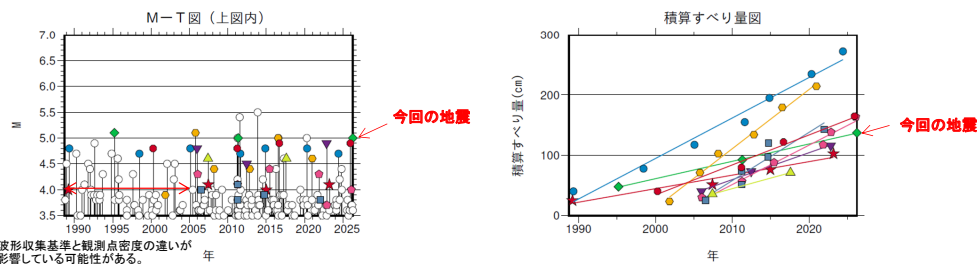
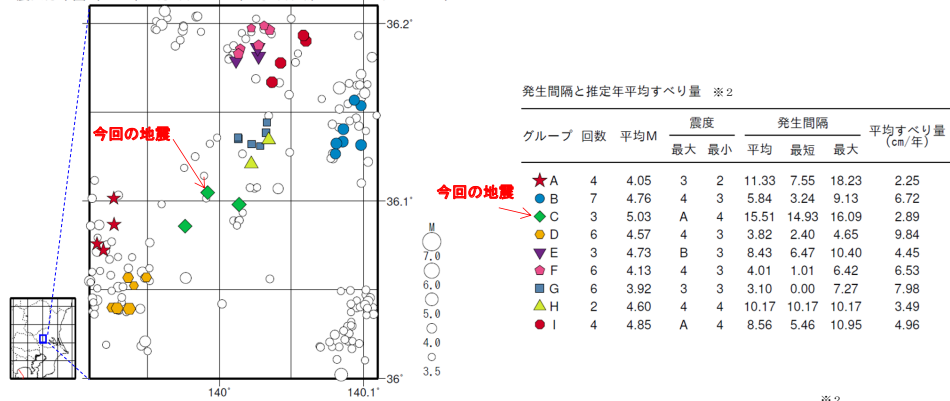


第 12 図 (a) 2026 年 4 月 1 日 茨城県南部の地震

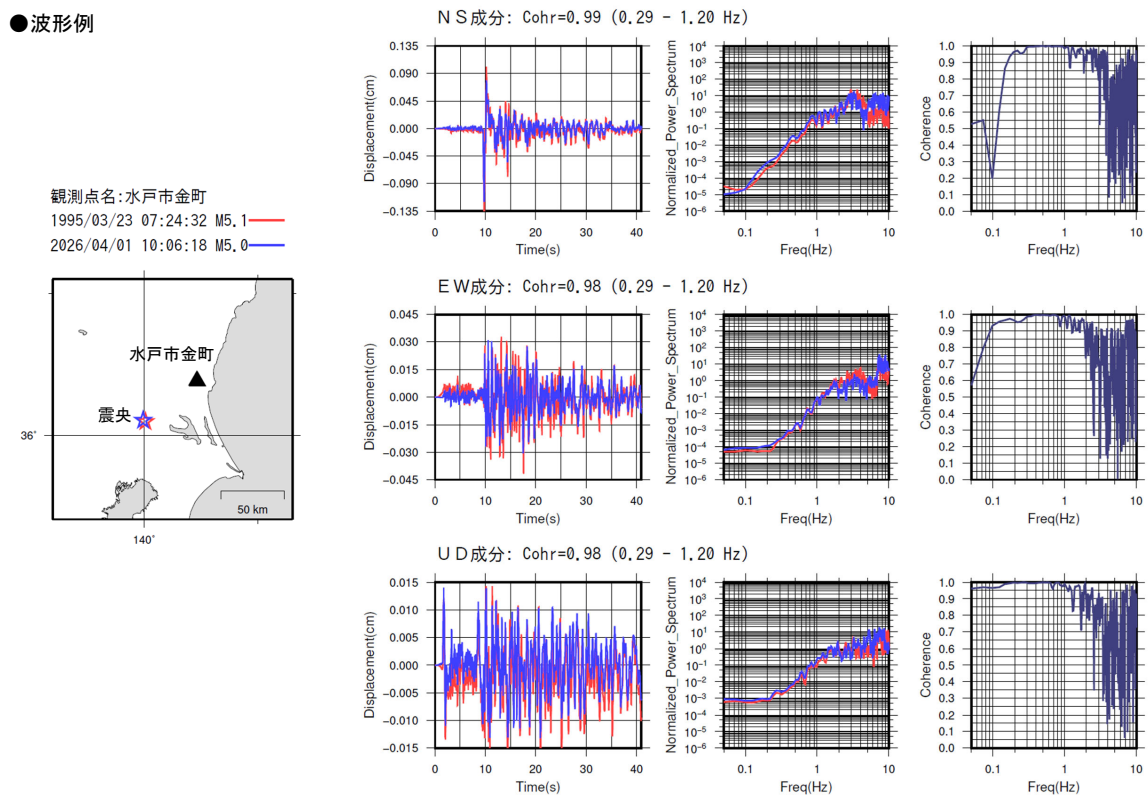
Fig. 12(a) The earthquake in the southern part of Ibaraki Prefecture. on April 1, 2026.

4月1日の茨城県南部の地震（相似地震）

茨城県南部で発生した2026年4月1日（M5.0、最大震度5弱）の地震について、
強震波形による相関解析を行った結果、既往の相似地震グループの最新の相似地震として検出された（グループC）※1。
震央分布図（1988年10月1日～2026年4月1日、深さ0～80km、M≧3.5）



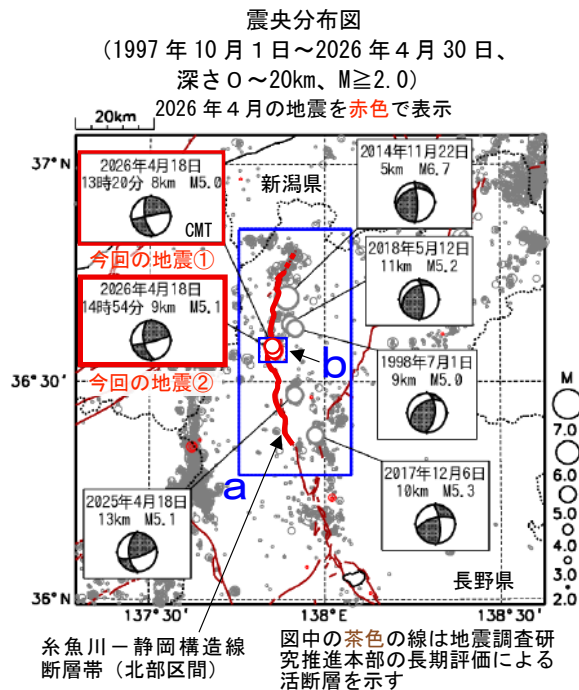
●波形例



第 12 図 (b) つづき

Fig. 12(b) Continued.

4 月 18 日 長野県北部の地震

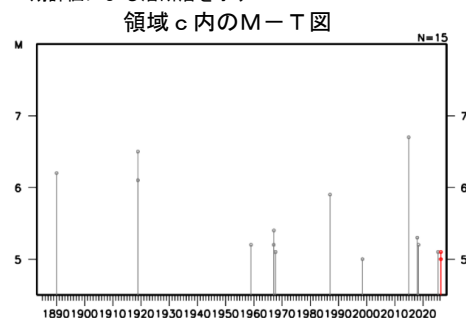
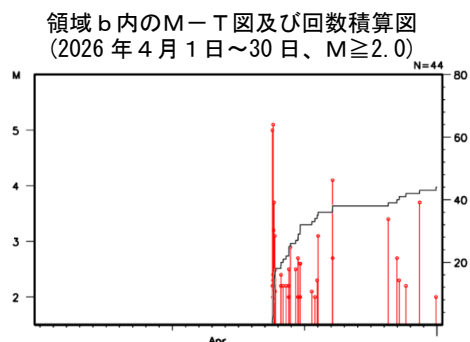
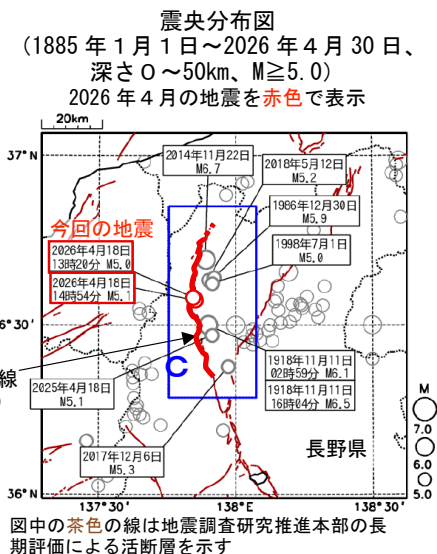
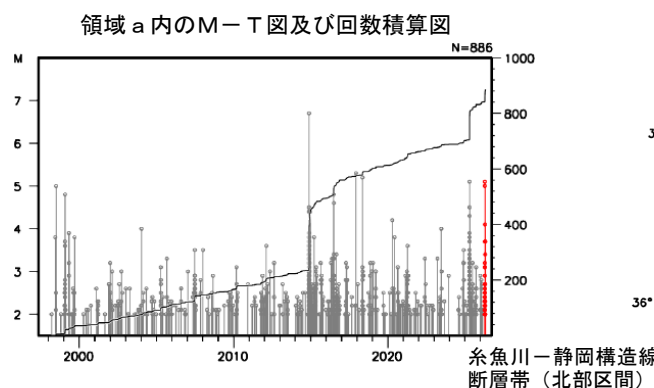


2026 年 4 月 18 日 13 時 20 分に長野県北部の深さ 8 km で $M5.0$ の地震 (①、最大震度 5 強) が発生した。また、同日 14 時 54 分にも、長野県北部の深さ 9 km で $M5.1$ の地震 (②、最大震度 5 弱) が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。これらの地震の発震機構は、北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

今回の地震の震央付近 (領域 b) では、4 月中に震度 1 以上を観測した地震が 37 回 (震度 5 強: 1 回、震度 5 弱: 1 回、震度 3: 7 回、震度 2: 6 回、震度 1: 22 回) 発生した。また、これらの地震により住家一部破損 104 棟の被害が生じた (2026 年 4 月 27 日 14 時 00 分現在、総務省消防庁による)。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域 a) では $M5.0$ 以上の地震が時々発生している。2014 年 11 月 22 日には $M6.7$ の地震 (最大震度 6 弱) が発生し、負傷者 46 人などの被害が生じた (被害は総務省消防庁による)。

1885 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、 $M5.0$ 以上の地震が時々発生している。このうち、1918 年 11 月 11 日には $M6.1$ と $M6.5$ の地震が発生し、家屋全倒 6 棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

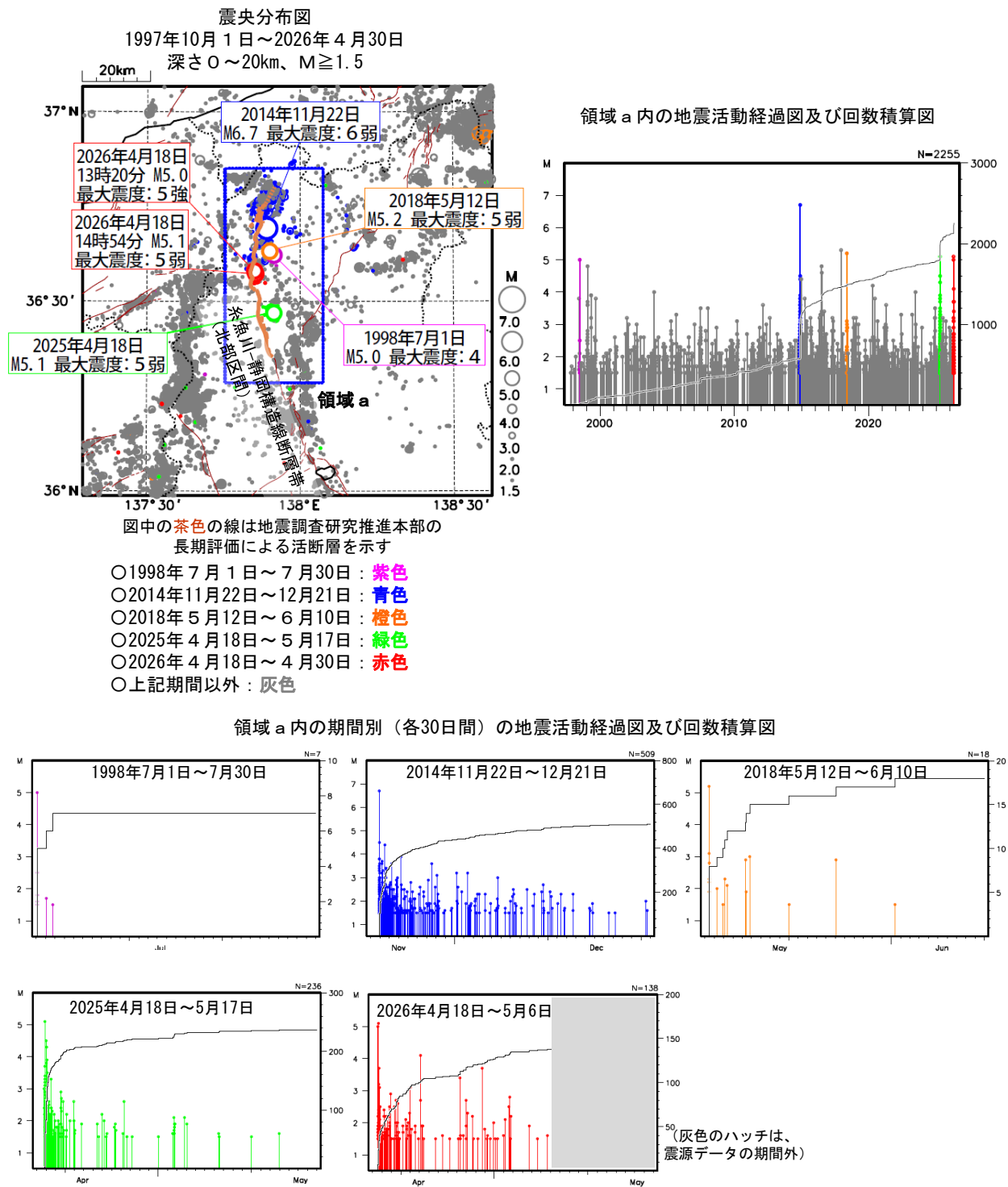


第 13 図 (a) 2026 年 4 月 18 日 長野県北部の地震

Fig. 13(a) The earthquake in the northern part of Nagano Prefecture. on April 18, 2026.

長野県北部の地震活動比較（30日間）

（過去の活動状況との比較、M1.5以上、30日間）

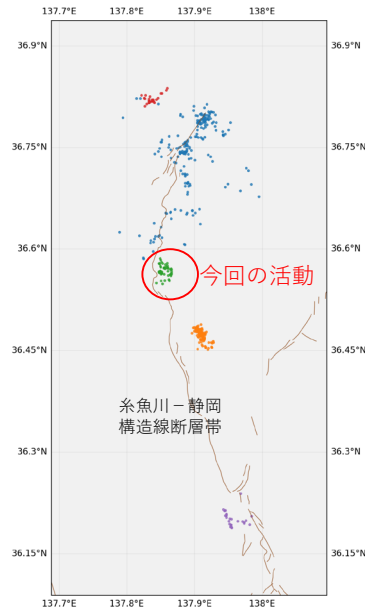


第 13 図 (b) つづき

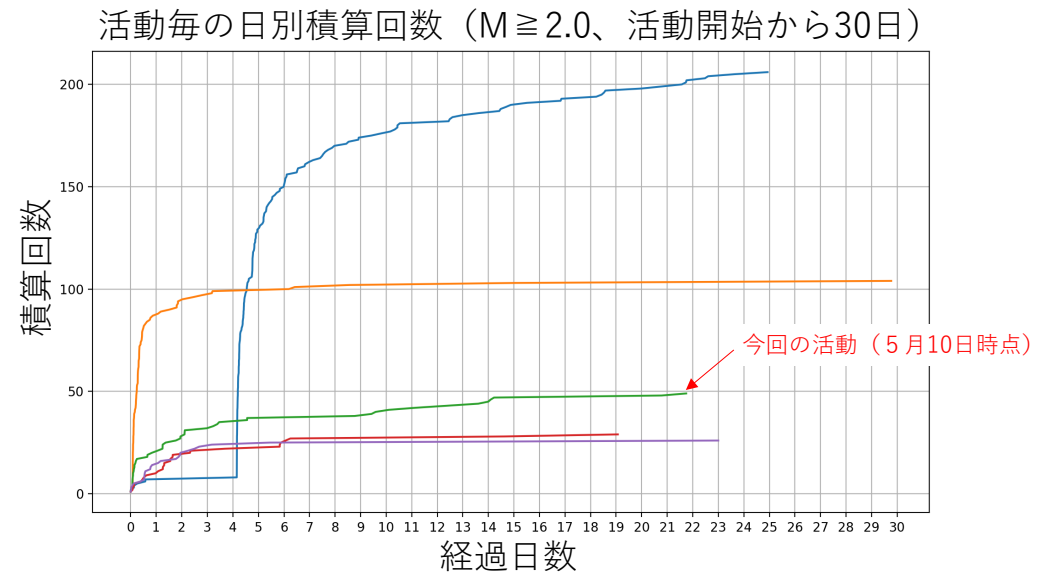
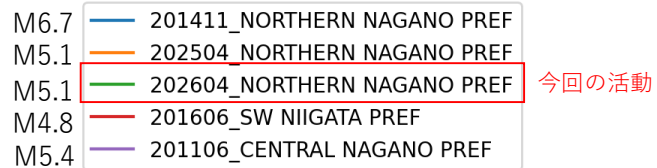
Fig. 13(b) Continued.

4月18日 長野県北部の地震

Zaliapin et al., 2008の方法により、糸魚川－静岡構造線断層帯付近の活動で1997年10月1日から2026年5月10日、M2.0以上、深さ0-20kmの地震のうち20個以上のまとまった活動が検知されたものについて、その震央位置と回数積算をプロットした。



図の茶色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

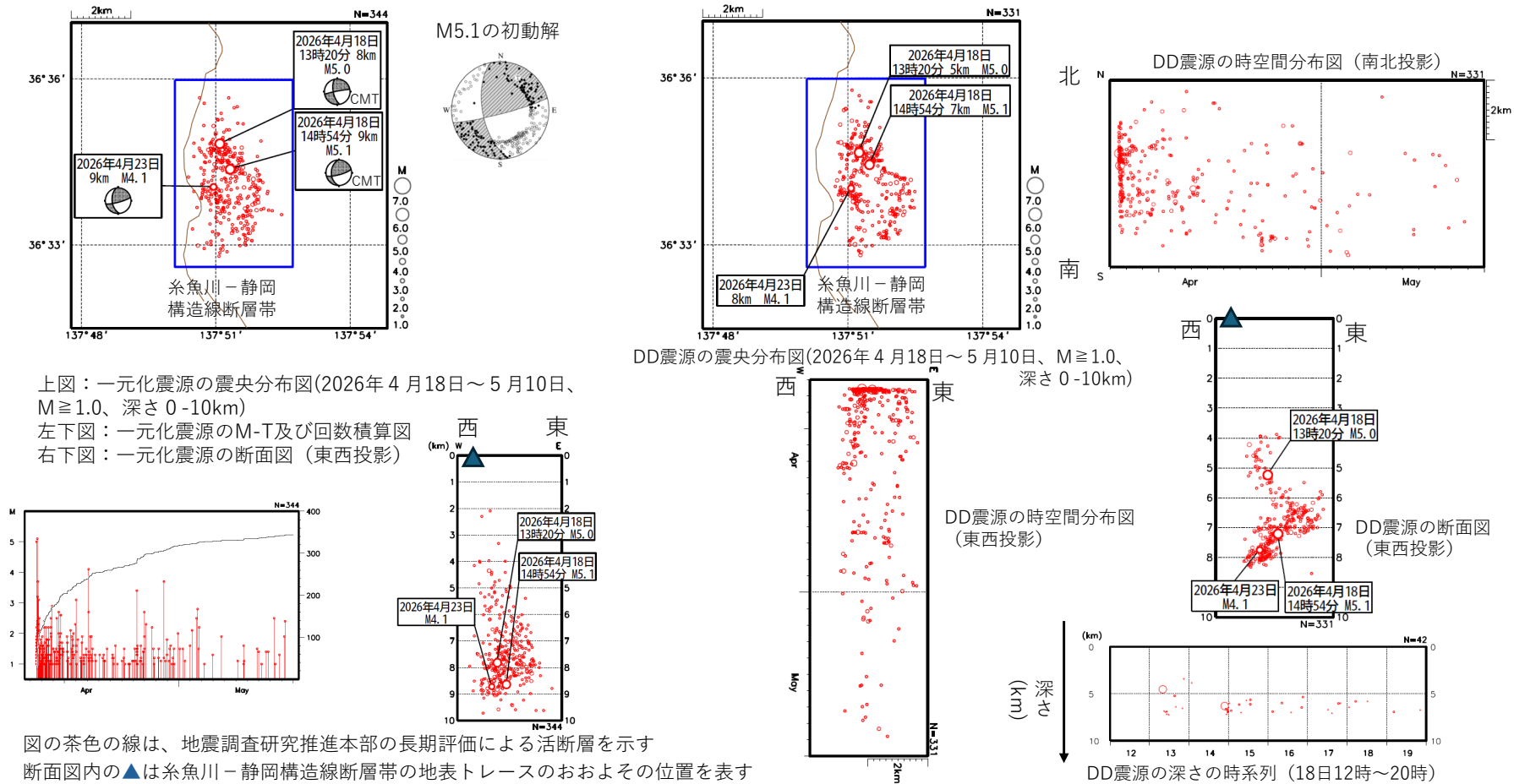


第13図(c) つづき

Fig. 13(c) Continued.

長野県北部の地震活動

4月18日から5月10日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。



上図：一元化震源の震央分布図(2026年4月18日～5月10日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-10km)
 左下図：一元化震源のM-T及び回数積算図
 右下図：一元化震源の断面図(東西投影)

DD震源の震央分布図(2026年4月18日～5月10日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-10km)

DD震源の時空間分布図(東西投影)

DD震源の断面図(東西投影)

DD震源の深さの時系列(18日12時～20時)

第13図(d) つづき
 Fig. 13(d) Continued.